



闘病記で生きる力を

～がんに向き合うために あなたに役立つ500冊～

闘病記は、様々な人生との向き合い方を示してくれます。

誰一人として同じ人生を歩むことはできませんが、

先を歩む方々から得られる情報は、今後の療養生活を送るうえで

闘病中の方やそのご家族の大きな力や支えとなることでしょう。

皆様が自分らしく生きるための一助となれば幸いです。

脳・神経・眼・・・1

口・のど・・・1

胸部・・・5

消化管・・・10

肝臓・胆のう・膵臓・・・24

泌尿器・・・30

女性・・・34

皮膚・・・47

骨・筋肉・・・48

血液・リンパ（白血病）・・・50

血液・リンパ（多発性骨髄腫）・・・54

血液・リンパ（悪性リンパ腫）・・・55

小児がん・・・56

その他・・・57

本書について

本書は、市民活動団体とさいたま市が協働して作成したものです。市民活動団体が選定した図書に基づき、がんに関する闘病記のリストとしてさいたま市が作成しました。

そのため、掲載している図書について、市が強く推奨するものではありません。

本書には、図書館の欄を設けています。これは、平成31年2月時点のさいたま市立図書館における所蔵の有無について、お示ししたものです。図書を借りたい場合は、お住まいの近くにある図書館にお問い合わせください。

図書の概要は、株式会社図書館流通センターの情報から引用しています。

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少 がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館	
1	脳・神経・ 眼	脳腫瘍	○	い	イッスン サキ ヒカリ 一寸先は光 それでも生きたい	ナカタ カンジ 中田完二	広済堂出版	遠い未来のことを考えると、そこには自分の力では変えられないものもある。しかし、今この時をどう生きるかによって、次の瞬間を変えることはできる。白血病、脳腫瘍、そして全盲との闘いで見た著者の命の輝き。* 白血病	2001	○	
2		脳腫瘍 (脊索腫)	○	お	オヤコ ツズ カイゴ ウタ 母娘で綴った介護の詩	ニシカワ キミコ 西川公子	ありあけ出版		2001	○	
3		脊髄腫瘍			た	タテ ない スワ アル 立てない・座れない・歩けなくなっ て…	タキグチ ナカアキ 滝口仲秋	本の泉社		2008	○
4					ぼ	ボディ・サイレント	ロバート・F・ マーフィー	平凡社ライブ ラリー	脊椎にできた「良性」の腫瘍によって神経系が徐々に破壊されるとい う死に至る病に冒された人類学者が、自分自身や家族、周囲の社会を フィールドワークした人類学的ドキュメンタリー。	2006	○
5					ゆ	ゆりちかへ ママからの伝言	テレニン アキコ 晃子	書肆侃侃房	力強く、大きな愛情のつづやき。優しく、微笑に満ちた言葉。悲しい のではなく、清々しい、吐息…。ガンと闘う母が生まれたばかりの 愛娘におくる、かけがえのないメッセージ。	2007	○
6	口・のど	口腔がん	○	あ	アンラク セイ シ 安楽 生と死	ニシノ タツキチ 西野辰吉	三一書房	食道がん・口腔がん(棘細胞)に侵された著者の、「余命こそ安楽な死を」という 渴望を、文学者の奥深い眼でつづる。医療政策・臨床医・薬害等の医療現場 の深い闇を照射する渾身の告発書。* 食道がん	1996	○	
7			○	そ	それでも私 ^{ワタクシ} は生 ^イ きる	ニフヨヤタ 丹羽小弥太	主婦の友社		1976	○	
8			○	は	ハリ センボン ワタクシ トウビョウキ 針千本 私のがん闘病記	エナツミヨシ 江夏美好	河出書房新社		1982	○	
9		上咽頭がん (鼻中隔がん)		り	リライフへの道 ^{ミチ}	ムーラン	新風舎		2007	○	
10		上咽頭がん (上顎洞がん)		お	オオトリ ケイスケ トウビョウキ 鳳啓助のポテチン闘病記	オオトリ ヨ 鳳ハマ子	毎日新聞社		1994	○	
11		上咽頭がん (上顎がん)		が	がん病床からの生還 ^{セイカン} がん病床からの生還	ミヤケ ヤスオ 三宅泰雄	新日本出版社		1981	○	

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少 がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
12	口・のど 咽頭がん	中咽頭がん (扁桃腺がん)		い	イノチ 生命のフィールド ガンを克服した ダイ 大リーガー	ブレッド・バト ラー ジェリー・ジェ ンキンス	小学館	絶望の淵から、彼はフィールドに戻ってきた。突然のガン宣告を受けながらも、諦めることなく堅固なる信仰を支えにガンに立ち向かい、そして克服した一人の大リーガーの、真実と希望の物語。	1999	○
13				あ	アクティブ・デス シンカイオシヨウ シ 真快和尚の死の センタク 選択	カフゴエヨウ 川越厚	岩波書店	死を迎えるにあたり、患者自身がいのちの主体として納得のいく計画をたて、一連の医療プロセスに積極的に関わりながら生を全うするアクティブ・デス。自ら死をデザインした一人の僧の姿から、新しい医療観を展望する。	1997	○
14					一日生きれば	安田つたゑ	看護の科学社		1991	○
15				い	イリョウ カンジャ セイカツ スク 医療は患者の生活を救えるか あ カンキョウ カガク ギジュツシャ 環境化学技術者のがん闘病体 ケン 験から	ミウラヨシアキ 美浦義明	パロル舎	優秀な環境化学技術者として高度成長期を駆け抜け、退職直後に中咽頭がんを発病した著者が、闘病生活の中で見出した全く新しい健康観・死生観を具体的な経験とともに提示。現代医療や現在の日本社会に警告を発する。	2005	○
16				こ	コエ 声をなくして	ナガサワ ミツオ 永沢光雄	晶文社	インタビューの名手として知られる著者は43歳の或る日、下咽頭ガンの手術で声を失ってしまう。その闘病生活を1年にわたり赤裸々に綴った日記。何があっても生きる。だから、みんなも生きて欲しいというメッセージを贈る。	2005	○
17				た	タマガワ オンセン トウビョウ ニッキ 玉川温泉ガン闘病日記	ふじみとむ	無明舎出版	上咽頭ガンで余命3カ月を宣告され、希望の光を「玉川」に求めた著者が綴った、前向きでユーモラス、そして不屈の、渾身の闘病記。	2003	○
18				に	ニシ ム 西へ向かう	ヒガンダ ヒサカズ 東田寿和	編集工房あゆ い	フォーク世代の50歳。末期がんを宣告されて5年。自らの命を有限と見定めるところから、本音の人生の後半戦が始まる!「がん」を分岐点とした、ひとりのオヤジの飄々・痛快エッセイ。親友・デューク更家との対談も収録。	2004	○
19				は	ハワイの海へ	三沢慶子	キャロム		2000	○
20				ふ	フウフ 夫婦で「がん」を生きる	スガヌマテイケン 菅沼定憲	日本評論社	夫は中咽頭がん、妻は乳がん+食道がん。共に「がん」を体験した2人が学んだのは「がん」と仲良くしましょう、ということ。がん細胞という不思議な生物の正体を探りながら考え、がんになったらどうすべきかを提言する。*乳がん	2008	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少 がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
21	咽頭がん			ふ	フウフドウジ 夫婦同時ガンになって ガン患者 の最新治療報告	スガヌマ テイケン 菅沼定憲	阪急コミュニ ケーションズ	ガンよ、ありがとう。愛を深めてくれてー。夫婦共に自覚症状が まったくなかったが、夫は中咽頭ガン、妻は乳ガンに。患者の立場 からのガン治療最新情報と、同時にガンを宣告された夫婦の愛の 記録。* 乳がん	2006	○
22				ぼ	ボク ゲンキ 僕は元気なガン患者	ガ ツヨユキ 角行之	医療文化社	* 食道がん、胃がん	2008	○
23				ゆ	ユメ ハナ ベントウ 夢の花弁当	オガワ ヒロコ 小川裕子 オガワ ヨウゾウ 小川幸三	文芸社	2008	○	
24	口・のど	喉頭がん		い	ミ フウケイ サッカ メ エガ いまだ見ぬ風景 作家の目で描き キ タカ 切ったガンとの闘い	コサカイ ショウゾウ 小堺昭三	文藝春秋	喉頭ガンの手術から3年。慶応病院の診察では、もう大丈夫と担当 医にも言われていたほど経過は良好だった著者の突然の死。時 に狂おしいまでに生への執着を見せ、時に冷静に現代医療の限 界を衝いた、作家のガンとの闘いの記。	1995	○
25				が	コエ ウバ シュジュツゴカイ ガンに声を奪われて 手術五回・ シセン 死線をさまよって知る生きる意味	エグチ ヒロシ 江口準	新生出版	戦争・敗戦・再生・繁栄と目まぐるしく変わった日本。静かな老後 を夢見た私を待っていたのは、声を失った人生でした…。激動の昭 和を生き、2001年9月、咽頭ガンのため声帯を摘出し、声を失った 男のものがたり。	2005	○
26				こ	コロムビア・ライトの高等がん漫談	コロムビア・ ライト	日本医療企画	1994	○	
27				ね	ネム キョウダイ 眠れ！兄弟がん がんになったー ゲカイ コクハツ 外科医の告白	シノダトクゾウ 篠田徳三	文芸社	* 食道がん	2004	○
28				あ	アイ マリエ 愛すればこそ 真利絵のためにマ ガン タタカ マは癌と闘ったよ	フカダトシヒコ 深田利彦	郁朋社	26歳で舌癌に冒されて11年。病魔との壮絶な闘いの中でも、妻と して、母として生きることを諦めなかった静美さん。彼女が幼い娘 に残しておきたかった真実の愛と命の記録。	2004	○
29	舌がん			う	ウシナ コエ 失われた声	カトウ サチコ 加東祥子	テレビ朝日	1990	○	
30					ジンセイ がん人生	シオザワトキ 塩沢とき	データハウス	* 乳がん	1992	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少 がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
31				が	がんになって ^{ハナ} 花になって ^{カゼ} 風になっ て	ハヤサカ ユミ 早坂由美	コスモヒルズ		2007	○
32	舌がん			が	ガンも自分いのちを生ききる ^{ジブン}	ササザワ サホ 笹沢左保	海竜社	死は生の一部。人は燃えて生きるべし。人生は死ぬ時までの暇つぶし。自らのガン体験を通して人気作家が書きおろす、生きることの価値、死ぬことの意味。与えられた命に対して真正面から目をむけて、すべての人におくる。* 胃がん	1994	○
33				こ	告知ありし日より ^{コクチ}	フクダ ケン 福田謙	東京図書出版 会		2003	○
34				た	岳史よ、生命あるかぎり ^{タケシ}	カウコウイチ 加東康一	講談社		1990	○
35				ひ	ヒロ、先にごめんね。現役看護師 ^{サキ} が遺した壮絶ガン闘病記 ^{ゲンエキカンゴシ}	ヤマシタ クニコ 山下久仁子	幻冬舎ルネッ サンス	舌がピリピリする…。そう言って耳鼻科を受診した時から始まる、ある現役看護師の日記。平成15年1月から翌年4月までの経過を綴る。ガンとの壮絶な戦いの貴重な記録。そして、家族への愛の記録。	2005	○
36				み	みんなが嘘をついている ^{ウソ} ガンとの闘い ^{トガエリハジメ}	トガエリチズコ 十返千鶴子	文藝春秋		1969	○
37				口・のど	舌がん(舌 根部腫瘍)		が	ガン告知が私を変えた ^{コクチ}	クボタ シンゴ 久保田進吾	静岡新聞社
38	甲状腺がん			か	風はアゲンスト ^{カゼ}	ヨシカワ ヨ 吉川なよ子	毎日新聞社	「おしん」といわれた半生、賞金女王のプレッシャー、離婚のストレス、がんとの闘い、リハビリと復帰、がんの再発と死の恐怖、30勝への思い…。プロゴルファー吉川なよ子の波乱にとんだ人生を描く。	1999	○
39					からだに寄りそう ^ヨ がんと暮らす ^{クラ} 日々 ^{ヒビ}	ハタエノブコ 波多江伸子	春秋社	自ら二度のがんを経てたどりついた独自の身体観、両親を在宅ホスピスで看取って覚えた病と死との和解術を、医療倫理の専門家が語る。闘わないためのもうひとつの闘病記。	2003	○
40				そ	その夏の別れ ^{ナツ}	ワダ タカン 和田 俊	筑摩書房	23年間共に暮らした最愛の妻をがんで失った著者は、人間にとっての“愛と死”の意味を初めて知る。深い悲しみと尽きぬ感謝をこめて綴られたひと組の夫婦の愛の記録。	1996	○
41				ほ	Home ^{カソク} 家族と歌が僕を守ってくれ ^{ウタ} た ^{ボク}	キヤマ ユウサク 木山裕策	光文社		2008	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少 がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
42	胸部	肺がん		あ	アスカ デンゴン センコク ハハ 飛鳥への伝言 がん宣告の母から ムスコ ツウ テガミ 息子への50通の手紙	タチバナ マサコ 橘雅子	講談社	生きるって何? 人間って何? 生命って何? 末期がんを抱えて生きる母が、最後の瞬間まで自分の生き方を貫く大切さをわかってほしいと、最愛の一人息子・飛鳥に思いを託す。一年余りにわたって綴られた病状報告。	2000	○
43					マッキ カンジャ ある末期がん患者のつぶやき	コウチ テツオ 高地哲夫	MEDSi	自らが治療の見込みのないがん患者となったことで、医療への考え方の大転換を迫られた麻酔科医。末期がん患者になって初めて見えてきたのは…。麻酔を核とした総合誌『LiSA』連載を単行本化。	2000	○
44				い	イ 生かされて生きる	トツカ イツオ 戸塚逸男	プレジデント社		1996	○
45					イシャ シンサツシツ 医者のない診察室	ササキ ユミ 佐々木由美	三秀社		2008	○
46					イ 愛しのサザビー	AYA	バジリコ出版	サザビー、クリスマスと一緒に過ごせなくてごめんなさい。イエス様がね、今年はどうしてもママのオルガンを聞きたいんだって。だから…。ガンで急逝した女性が愛犬サザビーのために残したブログ日記を書籍化。	2007	○
47					イ いのちの落語	ヒグチ ツヨシ 樋口強	文藝春秋	がんと闘う人々とその家族を招待し、東京深川で1年に1度だけかかる創作落語がある。その高座に上るのは悪性の肺がんから生還した会社員…。第2の人生を笑いに捧げる著者がおくる、実体験に根ざした笑いと涙の創作落語。	2005	○
48					イノチ ランパン イシ ムスメ マツ 生命の羅針盤 医師である娘が末 キ 期がんの父を看取るとき	ヤマダ ケイコ 山田恵子	講談社	医療とは何か、生命とは何か。大切な人に今あなたができることは何か。医師の視点と娘の目線。今までなかった両方の視線から問いかける医療ドキュメント。	2009	○
49					が	ニドノ セイカン ミンイレン シュ ガンから二度の生還 「民医連」手 ジュツ タイケンキ 術体験記	サナダ ナオン 真田是	かもがわ出版	肺ガンと食道ガン手術の体験記。運が良かっただけでなく、一番大きな理由は「民医連」が達していた医療水準と独特の国民の健康に奉仕する蓄積であったと考え、命拾いをした患者の目から、民医連へのデマを許さず事実を述べる。* 食道がん	2003

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
50					ガンが病氣じゃなくなったとき 死があるからこそ次のいのちは生まれ育つ、そして生きる力となり、受けつがれていく	イワサキ ジュンコ 岩崎順子	青海社	がんに出会った朝蔵、漁次、落子の子らのいる家族。がんが贈り物に思える日、思えない日をありのままに綴る。この世で一番大切なものとは? 静かに問いかける書。	2005	○
51					がんに克つことなんでもやった「肺がん」が消えた! 複合免疫治療の記録	ウスイヒロシ 臼井浩義	講談社		1993	○
52					がんに負けてたまるか	ヨコツカ タカシ 横塚隆嗣	桐書房	肺がん、大腸がんと闘いながら、患者会活動を通じて同病の仲間たちを励まし続けた半生記。がんの発見から手術、術後の自己管理まで、がんを克服した患者ならではの体験を紹介する。* 大腸がん	1999	○
53	胸部	肺がん		が	ガンの夫を自宅で看取る 医療ソーシャルワーカーの介護日記から	コジマ ミツコ 児島美都子	農文協	末期ガンで余命六カ月の告知を夫が受けた。その時夫妻が選んだのは「普通の生活」だった…。ガン患者がおだやかに生を終えるためにはどうしたらいいか、妻の介護日記の中にその鍵が述べられている。	1998	○
54					ガン 癌よ、ありがとう 始めて知った生きていることへの感謝と感動	スイズユクヒロ 水津征洋	風雲社	「あなたは癌です」と宣告されてから、ありとあらゆる免疫力を上げる方法を試みた。それと同時に、心の持ち方が病気を治すために、人生を幸せに生きていくためにいかに大切か気付かされた。小細胞癌を克服した著者の手記。	2005	○
55					ガンを味わう旅	サトウ キミコ 佐藤貴美子	新日本出版社	夫が「肺がん末期」と告知されてから二年間を共にたたかった妻の手記。社会進歩を求めて職場で思想差別を受けてきた夫の生き方が、積極的にがんをとたかかう強さにつながる。	2001	○
56					ガンを味わう やまかわみつる遺稿	やまかわみつる	東銀座出版社	告知直後 ふいに私のなかに 突きあがってきたあれは 何であったか 体に巣喰う癌とたたかってやる たたかわねばと 火が点いたように私を 熱くしたもの-告知から最期を迎えるまで書き綴った作品をまとめた詩画集。	2000	○
57				く	クモ ウエ ヒトミ 雲の上の瞳へ	アンドウ フサヨシ 安東房吉	牧歌社		2006	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館	
58	胸部	肺がん		げ	ゲルマニウムは蜘蛛の糸	小林利夫・謙之	廣川書店		2003	○	
59				こ	コウカイ 後悔だらけのがん闘病	ナカヤマ モトキ 中山幹	新潮OH!文庫		2000	○	
60					桜は二度咲いた 肺がんと闘い、 逝った女優・三ツ矢歌子	オノダ ヨシキ 小野田嘉幹	イースト・プレス	3回忌を前に、女優・三ツ矢歌子の闘病生活と死の真実を、夫が苦悩とともに赤裸々に明かす。がんに侵された歌子は、どう生き、どう減んでいったか。日々の往復書簡を紹介し、苛酷だった闘病と看護の生活を描く。	2006	○	
61					さ	31歳ガン漂流	オクヤマ タカヒロ 奥山貴宏	ポプラ社	自分がガンになるなど想像もせず、気ままに過ごしていた日々、突如「肺ガン」という事実がふりかかってきた。もちろん、ガン細胞とは闘う。でも、オレの日常はガンには譲り渡さない。そんな日々を赤裸々につづる日記。	2003	○
62						33歳ガン漂流 ラスト・イグジット	オクヤマ タカヒロ 奥山貴宏	牧野出版	オレを覚えてほしい…。余命宣告期限プラス2ヶ月。ガンと闘いながら、書くことに命を燃やし続けた男が逝った。「32歳ガン漂流 エヴォリューション」から亡くなる間際まで、力をふり絞り残したものをブログ中心に編集。	2005	○
63						32歳ガン漂流 エヴォリューション	オクヤマ タカヒロ 奥山貴宏	牧野出版	余命10ヶ月?それがどうした!? オレは今、生きてるぜ。Web、テレビで大反響の新型闘病記「31歳ガン漂流」から1年、ますます熱い日々を綴る。	2005	○
64					じ	熟年介護日誌 病人が病人を看る ということ	コバヤシ ヒロタダ 小林弘忠	日本放送出版協会	母は認知症、妻は直腸がん、ふたりを介護する著者もある日、肺がんを宣告されて…。高齢社会の残酷さを実体験として紹介。また、信頼される医療についても考える。	2007	○
65					ち	父のがんを知った日から	コバヤシ サトシ 小林智	寿郎社	突如、知らされた故郷の父の肺がん。告知するべきか否か…。初めての経験にとまどいながらも家族が一丸となって父を看取った感動のドキュメント。「がん」に関する本の紹介も充実。	2003	○
66					つ	妻と私	エトウ ジュン 江藤淳	文藝春秋	「治癒不能の癌、三ヶ月の命」宣告はある日、突然下った。死と競うように看病は続く。苦悩の日々とその合間に訪れる甘美な思い出。ついに妻を看取った時、自らも病魔に冒され、死の淵に立つ。生死の深淵を描く。	1999	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
67				て	テイネン タイビョウ コウレイキ サ 定年大病 高齢期に避けがたい 「がん」にいかに対処するか?	イワキ キヨタ 岩城喜代太	かんぽう(自費出版)	大手鉄鋼会社を定年退職し、再就職も決まり、「さあこれから」という矢先に定期健康診断で肺がん発見。治療、手術、自宅療法、定年うつ体験、悩み考えた事柄等をまとめる。「緩和ケアも含めての治療計画」に役立つ一冊。	2003	○
68	胸部	肺がん		て	テンキソウ ニチロク ハイセンガン イ 「天気草」日録 肺腺癌で逝った ツマ バンカ 妻への挽歌	カトウ コウイチ 加藤幸一	のべる出版	インターネットで全国に共感と感動の漣を広げた記録。最愛の妻を肺腺癌で亡くした著者の慟哭。入院する妻を支える日々を日記でまとめた愛と感動の書。	2003	○
69				て	テンキソウ ハイセンガン イ ツマ トウビョウ 天気草 肺腺癌で逝った妻の闘病 キ 記	カトウ アキコ 加藤明子	のべる出版	インターネットを通じてがん患者と医療者に共感と感動の漣を広げた家族の記録。ある日、妻の肺にがん、転移。妻と夫は意思として普通を生きる。そしてつかんだ、家族の幸福…。旅立つ前日まで綴られた妻の日記をまとめる。	2003	○
70				と	トウダイ チリョウイ ガン 東大のがん治療医が癌になって ムジョウ キンムイ セイカツ ああ無情の勤務医生活	カトウ ダイキ 加藤大基 ナカガワ ケイイチ 中川恵一	ロハスメディア	がん治療に関わってきた医者が、34歳にしてがん患者となった。がん患者となった経緯を追いながら闘病・がん患者としての心境を綴る。また、勤務医の劣悪な労働環境など、医療問題についても言及する。	2007	○
71				は	ハイ ビョウトウ セイカン 肺ガン病棟からの生還	ノハラ カズオ 野原一夫	新潮社		1990	○
72				ふ	フウフ 夫婦でがんになりました…	カラマ スウ 唐麻好	中経出版	* 胃がん	2007	○
73				ふ	フツウ 普通にしようや	カノウ ヒデキ 加納秀樹	どりむ社		2001	○
74				ふ	プロジェクト・キャンサー 「けもの ミチ エラ カンジャ 道」を選んだガン患者	オオハシ ジュンイチ 大橋淳一	角川書店	肺がんを告知された著者は家族のために10年生きることを決意。手馴れた企業戦略手法で情報を収集・分析、人脈を作り上げ、世界最先端治療に行き着く。自ら最善治療を選択する『患者学』を体験した感動ノンフィクション。	2001	○
75				ぼ	ボク ぼくの父はこうして死んだ 男性自 シン ガイデン 身外伝	ヤマグチ ショウスケ 山口正介	新潮社	いかにして死すべきかを考え続け、周囲への気配りを最後まで忘れずに逝った父・山口瞳。彼の名エッセイ「男性自身」が黙して語らなかった壮絶な日々を再現する、感涙の記録。	1996	○
76	ぼ	ボク 僕はガンと共に生きるために医者 ハイガン イシ になった 肺癌医師のホームペー ジ	イナツキ アキラ 稲月明	光文社新書		2002	○			

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館	
77				ま	マ ^マ 負けてたまるか ^{ハイ} 肺ガン ^{ケイジ} 刑事の ^{ナガ} 長 イ ^{フントウキ} 生き奮闘記	コンハラ ツネオ 腰原常雄	二見書房	余命3年の宣告から30年。手術で声を奪われた警部は職場復帰し、再発の不安の中、数々の大事件を解決、捜査一課長まで務めあげた。第2回NHK学園自分史文学賞優秀賞を受賞した「はなしあいて」に大幅加筆。	2002	○	
78	胸部	肺がん		ま	マツキ ^{マツキ} 末期ガンの母への贈り物 ^{ハイ オクモノ}	たまきいづむ	桂書房	余命半年と宣言された母に、娘はどんな贈り物をすべきか？ 私は母に「告知はしない」という贈り物を選んだ…。悩み、苦しみ、戸惑いながらも選んだ「贈り物」の数々を通して、母と共に過ごした半年間を綴った手記。	2005	○	
79				ま	まどろみ ^{ウミ} の海へ ^{ソウゲンシ} ある尊厳死 ^キ の記 ロク ^{ロク} 録	ホリエ セイジ 堀江誠二	PHP研究所	抗癌剤による治療はしたくない。自分自身を題材に、人が死んでいく様子を記録したい！ 末期肺癌で入院したテレビ構成作家が、5か月におよぶ病院生活と死に至るまでの過程を赤裸々に書き出したドキュメント。	2006	○	
80					ゆ	ゆーわけ、こわけ ^シ 死を歩む母、グ ^{アユ} ループケア ^{ハイ} の記録 ^{キロク}	ミスサワ シュウ 水沢周	文藝春秋		1991	○
81					わ	わが命 ^{イノチ} の灯 ^ヒ を ^{シンキンコウソク} 心筋梗塞と肺ガン ^{ハイ} を ^コ 越えて	アギ オウスケ 阿木翁助	講談社	* 心筋梗塞	1990	○
82						ワタクシ ^{ワタクシ} 私らしく ^イ 生きたい	ヤスダ 安田いづみ	さんこう社		2004	○
83		胸腺がん	○	お	お母 ^{カア} さんは薔薇 ^{バラ} の国 ^{クニ} へ ^イ 逝った	マツヒサ タカシ 松久隆司	文芸社	若くして癌で逝った妻の闘病の詳細を、深い愛情を込めて日記風につづったドキュメント。著者自身の全存在をかけて妻を救おうと苦悩し行動する姿が描かれた渾身の一冊。	2002	○	
84			○	せ	センシ ^{センシ} 戦士 ^{ケイレイ} に敬礼！	サイトウ ナナ 斎藤菜々	悠飛社	自ら多臓器転移を伴うガンに侵されながらも、最期まで医師の務めを全うした東京医科歯科大学外科医局長。病気が発覚してからの地獄の1カ月、妻の出産、職場復帰、そして最後の日々までを綴る、妻による亡き夫への鎮魂曲。	2006	○	
85		中皮腫(悪性胸膜中皮腫)	○	と	トオ ^{トオ} 遠い記憶 ^{キオク} とあるがん患者 ^{カンジャ} のメモ より	フタセ カズトシ 二瀬一俊	東洋出版		2002	○	

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
86	消化管	食道がん		あ	あれから ^{サンネン} 三年もう五年、そして六年 ^{ゴネン} アセイ 蛙声-nakai-	星湖舎		2006	×	
87					安楽 ^{アンラク} 生と死 ^{セイ シ} ミシノタツキチ 西野辰吉	三一書房	食道がん・口腔がん(棘細胞)に侵された著者の、「余命こそ安楽な死を」という渴望を、文学者の奥深い眼でつづる。医療政策・臨床医・薬害等の医療現場の深い闇を照射する渾身の告発書。*口腔がん	1996	○	
88	消化管	食道がん		い	イ ^{モノ} 生きる者の記録 ^{キロク} 佐藤健 ^{サトウケン} サトウケン シュ 佐藤健と取 サイハン 材班	毎日新聞社	末期がんにむしばまれながらも、自らの「生」を最後まで冷徹に見据えた新聞記者。自身の最期の1カ月を、湯治場や病床の風景とともに記録する。『毎日新聞』で大反響を呼んだ魂のルポルタージュ。*肝臓がん	2003	○	
89				おい ^{ガン} 癌め酌みかはさうぜ ^ク 秋の酒 ^{アキ サケ} エクニ シゲル 江國 滋 江国滋闘病日記	新潮社	食道癌告知、十時間余の大手術、水一滴飲めぬ六ヶ月間に綴られた日記と詠み続けられた俳句は、壮絶で粹でさえあった。敗れはしたけれど闘いきった187日、闘病俳句223句を収録。表題は「敗北宣言」と題された辞世句。	1997	○		
90				オオゾラ マユミ タジュウ ゲキタイチュウ 大空真弓、「多重がん」撃退中！ ニユウ イ ショクドウ 乳がん胃がん食道がん	宝島社	乳がんの手術から5年、転移ではなく胃がん発症、続いて食道がんも…。女優・大空真弓は「モグラたたき」のようにがんを先手で撃退してきた。「こんな患者みたことない」と医者も驚く多重がん患者・大空真弓の戦い！ *胃がん、乳がん	2005	○		
91				オット ショクドウガン 夫と食道癌	健友館		2003	○		
92				オヤ 親ががんだとわかったら一 ^{カゾク} 家族自 ^メ セン チリョウ タイケンキ 線のがん治療体験記	文藝春秋	72歳の父にがん発覚! 娘は何をすればいいの? 健康ライターの娘が描く、明るく読めて役に立つ治療体験記。病院選び、治療法の検討、入院便利グッズなどのノウハウが満載。	2010	○		
93				カゼ フ 風に吹かれて 一 ^{イチ} 開業医の食道ガ ^イ ビョウショウ ザツキ ン病床雑記	海鳥社	進行性食道ガンの発病、手術、転移、抗ガン剤治療-。遠からぬ死を眼前に見据え、痛みを恐れ、自己の消滅に怯えつつ、残された時をかけ生の意味を問う。医師として、患者として、病床で綴った畢生のドキュメント。	2000	○		
94				ガンから ^{ニドノ} 二度の生還 ^{セイカン} 「民医連」手 ^{ミンイレン シュ} ジュツ タイケンキ 術体験記	かもがわ出版	肺ガンと食道ガン手術の体験記。運が良かっただけでなく、一番大きな理由は「民医連」が達していた医療水準と独特の国民の健康に奉仕する蓄積であったと考え、命拾いをした患者の目から、民医連へのデマを許さず事実を述べる。*肺がん	2003	○		

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少 がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
95				が	ニッキ ニセンヨネン ニガツヨウカ ガン日記 二〇〇四年二月八日ヨ リ三月十八日入院マデ	ナカノヨウジ 中野孝次	文藝春秋	限られた日々を見据えた、清冽にして、つよい、40日間のまさに珠玉の言葉…。ガンの告知を受けた故中野氏が、平成16年2月8日から同3月18日まで、検査通院を繰り返し、治療のために入院する日の朝までを記したもの。	2006	○
96					シュクメイイヤシ ウンメイ タタカ カ ガンは宿命癒しは運命 闘って克 つ新・夫婦養生訓	セキネ ススム 関根進	太陽企画出版	ガン病棟脱走から一年。宿命と運命に頭をゴツンゴツンとぶつけながら編み出した、中年夫婦の「癒しの養生訓」。日経BP社99年刊「母はボケ、俺はガン」に続く、それから一年間の闘病始末記。	2000	○
97					ガン 癌め	エクニ シゲル 江國 滋	富士見書房 (角川文庫は1999)	おい癌め酌みかはさうぜ秋の酒 ドキュメントを超えて表現された、闘病の〈現実〉と心情のすべて。江国滋が遺した545句。	1997 1999	○
98				こ	オオ ソラ ウエ この大きな空の上から	ヒノ サトミ 日野聡美	新風舎		2007	○
99				さ	ヤクソク オット ササ ユウキ さいごの約束 夫に捧げた有機の 酒「和の月」	サカモト ケイコ 坂本敬子	文藝春秋	造り酒屋の六代目、働きざかりの夫ががんに倒れた。余命半年。あらゆる最新の治療法を試したあとで、妻は決意した。夫の生きたあかしに新しい酒を造ろう。夫婦の絆を問う感動の手記。	2005	○
100					サクラ ハナ サ 桜の花が咲くまでは 俳優・三浦洋 一 食道ガンと闘った日々	ミウラ マリコ 三浦真理子	扶桑社	「桜の花が咲くまでは生きてほしい、そして本人も生きたいと闘い続けた日々でした…」15年にもおよぶ持病との闘い、そしてガンの宣告。病気を押し立てた最後の舞台。妻が明かす、夫・三浦洋一の闘病のすべて。	2001	○
101				し	シュウマツ ヨンオ 終末への装い	カワクボ 川久保とくお	文藝書房	その年もバリウムによる消化器の集団検診を受けた。2週間ほどで「精密検査の要あり」という通知がきた。「ああ、やっぱりまずかったな」と思っただけで気持の動揺はなかった。しかし…。ノンフィクション。	2005	○
102	消化管	食道がん		た	タカミ ジュン トウビョウ ニッキ 高見順 闘病日記 上	タカミ ジュン 高見順	岩波書店(同 時代ライブラ リー)		1990	○
103					タカミ ジュン トウビョウ ニッキ 高見順 闘病日記 下	タカミ ジュン 高見順	岩波書店(同 時代ライブラ リー)		1990	○
104				ね	ネム キョウダイ 眠れ！兄弟がん がんになった一 外科医の告白	シノダ トクゾウ 篠田徳三	文芸社	* 喉頭がん	2004	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
105				は	ハハ オレ ニセダイトウビョウ 母はボケ、俺はガン 二世代倒病	セキネ ススム 関根進	日経BP社	突然の癌宣告、入院。さらに時を同じくして老いた母が老人病院に…。姑の介護をしながら夫を支えた妻、そしてメール仲間たちが仕掛けた、「泣き笑いの癌病棟脱出劇」とは? そして「奇跡」が…。	1999	○
106				ひ	ヒデヒコ アイ 英彦、パパ愛してる	マツモトヨシコ 松本佳子	日本放送出版協会	天才的なサックス・プレイヤー松本英彦の後半生を、彼に寄り添うように生き、二度にわたる病魔との闘いにも共に挑んだ夫人の視点で描くノンフィクション。栄光のジャズマンを支えた夫婦愛。	2003	○
107					ヒト シ 人が死ぬるといふこと	イケガミ ミツコ 池亀光子	新風舎		2005	○
108				ぼ	ボク ゲンキ カンジャ 僕は元気なガン患者	カド ツラユキ 角行之	医療文化社	* 咽頭がん、胃がん	2008	○
109				め	ワタクシ ショクドウ シュジュツ タイケン メメント・モリ 私の食道手術体験	ゴトウ メイセイ 後藤明生	中央公論社		1990	○
110		食道がん		も	アイ もういちど愛たい	カフムラトシコ 河村淑子	中日出版社	* 胃がん	1986	○
111				わ	ソンゲンシ エラ わたしは尊厳死を選んだ ガンに イ ニチ 生きた900日	サイヨウ ヒデオ 細郷秀雄	講談社		1993	○
112					アイ 愛をみつけた 大助・花子のおや ニッキ オヤ日記	ミヤガワ ダイスケ ハナコ 宮川大助 ミヤガワ ハナコ 宮川花子	朝日新聞社	人気の夫婦漫才の大助・花子が、ガンと闘った5年間の日々。子育て、家庭、仕事などについて、明るく、あっけらかんと綴った家族愛の物語。	1994	○
113	消化管			あ		オオウラ シズコ 大浦静子	北國新聞社	がんが再発した大浦郁代さんは、大切な人たちを訪ねる「お別れの旅」をし、遺書を書き、「ありがとう」の言葉を残して34歳で旅立った。郁代さんの母である著者が、思い出の日々や亡くなるまでの姿を綴る。	2006	○
114					「ありがとう」と「さようなら」の旅立 チ タビダ	ウカジ ナオコ 宇梶尚子	燦葉出版		2006	×
115		胃がん			ヒト いい人はガンになる	ヨシカワ ユウイチ 吉川勇一	KSS出版	タバコ、酒、食べ物、公共機関、生命保険、障害者手帳、妻、親きょうだい…。「闘病」を通して見えてくる、ガンとの爽快な付き合い。自らの体験を通して、ガンと共にある暮らしを語る。* 膀胱がん	1999	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
116				い	生きて、 ^{カエ} 還りぬ。 ^{インチョウ シンコウ} がん院長、 ^{シンコウ} 進行 胃がんを友に14年	ハラケイイチ 原啓一	集英社	突如“がん”を告げられた時から、克服しそして最前線に復帰するまでの心の揺れを、患者として、医師として、ポスピス運動家としての三つの角度から照射する貴重な啓蒙書。	1993	○
117					^{ジュギョウ} いのちの授業 ^{タタカ オオセ} がんと闘った大瀬 ^{コウチョウ ロクネンカン} 校長の六年間	カナガワ シンブン ホ 神奈川新聞 ウドウフ 報道部	新潮社	新設校の校長として進めた斬新な学校創りが、教育界に旋風を起こした。全国から見学者が訪れ始めた矢先、突然の末期がん宣告…。教育への熱き思い、迫りくる死の恐怖…。『神奈川新聞』連載を再構成、加筆し単行本化。	2005	○
118				い	^{イ キ ナカマ} 胃を切った仲間たち ^{イセツロウイシヨウ} 胃切後遺症 ^{コクフクホウ} とその克服法	マスタ カズヒコ 升田和比古 ケンイ カイ 健胃会監修	桐書房	数十万人の全国胃切者への応援メッセージ! 食事の工夫、日常生活の改善、病氣予防とその対応など、体験をもとにしてまとめた、胃切後遺症克服のバイブル。90年刊の続編。	2003	○
119				え	^{ジテンシャ サイアイ アネ} えみちゃんの自転車 ^{アネ} 最愛の姉を ガンが奪って	フルタチ イチロウ 古館伊知郎	集英社 (集英社文庫 は1994)		1991 1994	○
120				お	^{オオゾラ マユミ タジュウ ゲキタイチュウ} 大空真弓、「多重がん」撃退中! ^{ニユウ イ ショクドウ} 乳がん胃がん食道がん	オオゾラ マユミ 大空真弓	宝島社	乳がんの手術から5年、転移ではなく胃がん発症、続いて食道がんも…。女優・大空真弓は「モグラたたき」のようにがんを先手で撃退してきた。「こんな患者みたことない」と医者も驚く多重がん患者・大空真弓の戦い! * 食道がん、乳がん	2005	○
121					^{トウ タタカ} お父ちゃまの闘い	オマタヨシフミ 小俣好文	神奈川新聞社		2001	○
122				か	^{カミ ホトケ カンゴフ} 神さま、仏さま、看護婦さま一。	タカハン コウイチ 高橋浩一	日総研		2000	○
123	消化管	胃がん			^{オオハン キョセン バアイ} がん 大橋巨泉の場合	オオハン キョセン 大橋巨泉	講談社	「リッパな癌です」と医者は言った。「癌に対する無知や誤解や偏見」に対して、体験者の立場から明らかにするべく、手記の形式で自らの体験を赤裸々に綴る。附録に、部位別の癌の専門医500を収録。	2005	○
124					^{カンジャ ビョウイン オクリモノ} がん患者から病院への贈物 やさ ^{カンジャ セツグウ テビ} しい患者接遇の手引き	ハナサト ケイ 花里恵	照林社		1990	○
125					^{ガン カンジャ ニッキ} 癌患者の日記	オクモト コウ 奥本康	文芸社	* 大腸がん	2004	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
126				が	セйкаツシヤ ニチ がん生活者の730日 2002-2004	ソダ ヒデヒコ 曾田秀彦	西田書店		2007	○
127				が	ガン タタカ センリュウ ランギョク シュウ 癌と闘うーユーモア川柳乱魚句集	イマガワ ランギョ 今川乱魚	新葉館出版	喪った臓器をさがす人体図 腸健気先立たれた胃の代わりして十年は生きて手術の元を取る 笑い療法でがんに立ち向かう、ユーモア川柳で綴るがん闘病140日。	2003	○
128				が	ジブン ガンも自分いのちを生ききる	ササザワ サホ 笹沢左保	海竜社	死は生の一部。人は燃えて生きるべし。人生は死ぬ時までの暇つぶし。自らのガン体験を通して人気作家が書きおろす、生きることの価値、死ぬことの意味。与えられた命に対して真正面から目をむけて、すべての人におくる。*舌がん	1994	○
129				が	トモ イ ウツセミバシ フタ がんを友に生きる 空蟬橋を渡ったジャーナリスト	マツイ ジュイチ 松井寿一	元就出版社	「がん」と知らされたときは「まさか」と戸惑い、「どうすりゃいいんだ」と途方にくれた。しかし「自分は医療ジャーナリストだ」と気を取り直した…。がん発病から手術、退院、そして現在まで、自身の一部始終を克明に綴る。	2005	○
130				き	キムラ セイチ ショウガイ シンギョウキ 木村誠一さんの生涯と『真楽記』	アサノ ジュンイ 浅野純以編	自照社出版		2002	○
131				こ	コクチ ゲカイ ミズカ ジッセン ツマ 告知 外科医自ら実践した妻へのガン告知と末期医療	クマサワ ケンイチ 熊沢健一	PHP文庫		2004	○
132				こ	コクチ テンゴク ツマ 告知せず 天国の妻へラブレター	ニシエ ヨウジ 西家洋治	近代文芸社	4人に1人がガンで死ぬ時代、ガンの罹病がもし愛する貴方の家族だったら…。末期ガンで余命3カ月と宣告された妻の、発病から死去までを綴ったエッセイ。	2001	○
133					これからだよ ガンとともに生き抜いたパパへ	サルワタリ ケイコ 猿渡啓子	新風舎		2006	○
134	消化管	胃がん			サドン・デス	アラキ ケイチ 荒木啓一	鳥影社		2000	○
135				さ	サンドメ 三度目のガンよ、来るならごゆるりと	ウメハラ タケン 梅原猛	光文社	二度のガンは私に多くのことを教えた。そのガンによって私の人生を見る目が、前と比べてはるかに透明になったことはまちがいない。ガンはありがたい収穫を私にもたらしたのだ。大腸ガン、胃ガンを克服した著者が語る。*大腸がん	2001	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
136					サンモン カンジャ 三文ガン患者	タニオカ マサキ 谷岡雅樹	太田出版	ヘイ、ドクター! 教えてくれよ、真実を!! 『Vシネマ魂』で知られる映画評論家が、「32歳・胃の全摘手術」という体験の中から叩きつける、旋破りの闘病レポート。	2001	○
137					シ タイジ タイヨウ カタ 死と対峙し太陽と語る	タケウチ ノボル 竹内昇	日本図書刊行会		1997	○
138				し	ショウセツ 小説「なんでやねん」と虫が哭く	さくらいひでお	文芸社		2008	○
139					シ カンジャ 知りたがりやのガン患者	タネムラ コ 種村エイ子	農山漁村文化協会	進行性胃ガンと診断され、全胃摘出手術を受けた著者が、自らの体験を明るく語る。「こわがりのくせに知りたがりやの、やっかいなガン患者」が、いかにして信頼できる医師・治療法に出会ったかを克明に綴る。	1996	○
140				ぜ	ゼンリヤク カンジャサマ カンジャ 前略 がん患者様 ベテラン患者 より、元気の出る嘸を一席	ショウフクテイ コマツ 笑福亭小松	PHP研究所	「病氣」になっても「病人」になったらあきません…。進行性胃ガンと診断された著者が手術後、「5年生存率15%」という絶望と自棄の境地を経て8年。ベテランがん患者からの元気になる涙あり、笑いありの熱いメッセージ。	2005	○
141				そ	キミ カゼ ツマ そして、君はそよ風になった 妻の ガン死をのりこえて-僕と娘の物語	クワハラ シゲキ 桑原繁樹	展望社	幼い娘と僕は毎日、涙の川を懸命に泳ぐ。いつになったら向こう岸に着けるのだろう…。ガンで妻を失った夫とその娘が絶望から立ち直るまでの魂の記録。	2008	○
142					タクケン ショウビョウキョウカ 拓健パパの傷病休暇	イワモト カズナリ 岩本和成	新風舎		2003	○
143				た	タジュウ ヨクフク タイケンテキ テリョウ 多重がんを克服して 体験的治療 ガク学	クロカワ ノブユキ 黒川宣之	金曜日	著者の前立腺がん、大腸がん、胃がんの治療体験を中心に、がん医療の現状を取り上げる。貴重な「用心と安心のガイドブック」。『週刊金曜日』に連載された「多重がんに見舞われて 体験的治療学」に加筆して単行本化。* 大腸がん、前立腺がん	2006	○
144	消化管	胃がん		ち	チチ オ サンジ サンジユウ ナナフン ヨンジュウビョウ 父、卒わる 三時三十七分四十秒	ツルイ ミチマサ 轟井通眞	講談社		1991	○
145				つ	ツマ ダイオウジョウ 妻の大往生	エイ ロクスケ 永六輔	中公文庫		2005	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
146				と	トオル、君を忘れない ^{キミ フス} 森徹のオリ ^{モリオル} ンピック	シミズ コウイチ 清水浩一	ポロンテ。	最高の舞台を目前にして、天才モーグル・スキーヤー森徹に突きつけられたのは絶望的な「がんの宣告」だった。ソルトレーク・オリンピックをめざし、病魔に立ち向かったトオルの魂は家族と恋人に支えられ、最後の輝きを放つ!	2002	○
147				な	涙のアンパンマン・マーチ ^{ナミダ}	ハラシマ クミコ 原島久美子	書苑新書	死を見据えながらも前向きに。スキルス胃癌で亡くなった、3児の母親の闘病日記。人は死を見据えつづけながらもこれほど前向きに可能性を追い求めながら生きることが出来るのです。	1995	○
148				ひ	ヒカリ 光	ヒサマツ 久松ゆり	本の森		2003	○
149				び	病室から夢を追って 熟年パソコン ^{ビョウシツ ユメ オ シュクネン} オタクの胃がん闘病記 ^{イ トウビョウキ}	タグチ カズオ 田口和男	里文出版	「電車男」ならぬ「胃がん男」が、ソーシャル・ネットワーク・サービスのコミュニティに参加し、オンライン仲間との対話を中心に、病室で描いた夢を求めた闘病記。体調不良を抱える中高年に勇気と希望を与える書。	2007	○
150				ふ	フウフ 夫婦でがんになりました…	カラムスウ 唐麻好	中経出版	* 肺がん	2007	○
151				ほ	ホスピスで安らかな旅立ち ^{ヤス タビダ}	ウスダ ケイコ・キヨジ 臼田敬子・喜代二	郁朋社		2004	○
152				ぼ	ボク ゲンキ ^{カンジャ} 僕は元気なガン患者	カド ツラユキ 角行之	医療文化社	* 咽頭がん、食道がん	2008	○
153				ま	マツキ 末期ガンになったIT社長からの手 ^{シヤチョウ テ} 紙 ^{ガミ}	フジタ ケンイチ 藤田憲一	幻冬舎	若手IT社長の著者が突然受けた「余命3カ月」の宣告。絶望と戦いながらも、幸福とは何か、死とは何かを考え続け、残された人生の総仕上げにかかる。闘病生活の中で書き下ろされた一冊。	2006	○
154				み	ミズ ^{カンジャ} 自らががん患者となって ^{ワタクシ イゼン} 私の胃全 ^ア 摘とその後:がん研究と臨床の明 ^{テキ ゴ ケンキュウ リンショウ} 日に想いを致す ^{ス オモ イタ}	スギムラ タカシ 杉村隆	哲学書房	ひとは、自らのがんを知った時、何を感じ、何を考えるか。がん研究の第一人者である著者が、自らの胃がん全摘手術とその後を冷徹に解析し、研究と臨床に結んで行く、たぐいまれな精神の記録。	2005	○
155	消化管	胃がん		も	もういちど愛たい ^{アイ}	カワムラトシコ 河村淑子	中日出版社	* 食道がん	1986	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
156				ゆ	ユウシュウ シン 有終の死（魅力学シリーズ）なぜ こうも心穏やかに死を迎えられた のか？	シムラトシユキ 志村利之	プロスパー出版	日々新たな命の誕生に接していた産婦人科医が、自分自身の肉体が末期のガンに冒され、死が近いこと知った。人間の永遠のテーマである「生」と「死」という重い事実を、淡々と冷静に、しかも洒脱に描いた魂の記録。	2000	○
157				わ	ワガハイ 吾輩はがんである	ショウフクテイ コマツ 笑福亭小松	講談社	「時間をください。まだ小さいうちの子が、おとなになるまでとは言いません…」5年生存率が15%の末期がんを、ファイティング・スピリットで克服。落語家として、父として、夫として、刻み続けた5年間の心の軌跡。	2002	○
158					ワタクシ ワタクシ 私は私でありたい 永遠の18歳か らのメッセージ	タカキワ ミサ 高際美佐	PHP研究所	急速に進行するガンが若い肉体を蝕む中、どんな痛み、苦しみにも絶望せず、周囲の人に生きる勇気を与えつづけた少女。18歳でこの世を去るまでに彼女が遺した感動の記録。	2000	○
159		十二指腸がん	○	こ	コクチ 告知せず	コザイレイコ 古財麗子	文芸社		2003	○
160		小腸がん	○	け	ケイサツ カンリョウ トウビョウ 警察官僚ガン闘病ブログ	モリザネ サトル マキ 森實悟・満紀 カワノヨウイチ 河野浩一編	中経出版		2007	○
161		小腸肉腫	○	お	カゾク おれたちは家族	オオハラ ケンロウ 大原健士郎	朝日新聞社		1989	○
162				あ	ジュン ありがとう順ちゃん そして3人の息 子へ	オチアイ キヨミ 落合喜代美	新風舎		2006	○
163					イ ツ ヒト ゼンシン ショウセツカ イノウエミ 生き尽くす人 全身小説家 井上 ツハル ニチ 光晴のガン1000日	ヤマカワ アキラ 山川暁	新潮社	己の文学のために、ガンを運命として受容することを拒み、敢えて闘病者の道を歩んだ「最後のプロレタリア作家」の肖像。冷静な筆致に深い共感を込めて描く、1000日の生。	1997	○
164	消化管				イ ヒヤクハチジュウニチメ ソラ 生きる。一八〇日目のあお空	ヨシタケ テルコ 吉武輝子	海竜社	自然気胸、肺気腫、難病の膠原病、そして大腸がん。どんなときもかっこよくハードルを越える！ 勇気と希望をはたはたと掲げながら生きてゆく、人間としての存在の孤独を綴る。	2006	○
165		大腸がん		い	インシャ ガン 医者が癌にかかったとき	タケナカフミヨシ 竹中文良	文春文庫		1994	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
166					イシヤ ガン 医者が癌にかかったとき 続	タケナカフミヨシ 竹中文良	文藝春秋	自身の術後9年間、患者から学んだこと、癌治療と医療現場のいま…等々、医師生活40年の日赤医療センター外科部長が、激変する医療の現場での想いを綴ったエッセイ・レポート。	1995	○
167					イツショ トシト 一緒に年取れずにごめんね 妻が ガン患者になったとき	シミズ ミツオ 清水光雄	小学館	人はこんなにたくさんの悲しみにも耐えられる。サラリーマンを支える妻が、突然病で倒れたら…。新聞記者の夫が、仕事・愛・死を見つめ、家族で闘った636日のがん闘病記。	1999	○
168				か	カイフクシツ 回復室Bのドア 夫が末期ガンに なったとき	えずみなお	風塵社	幸せな家庭を襲った夫のガン。宣告、手術、転院そして別離へと向かう壮絶な5ヶ月間の闘病生活を、妻の視点から描く。残された者の癒しの過程としても、貴重な記録である。	2003	○
169				が	ガン カンジャ ニッキ 癌患者の日記	オクモト コウ 奥本康	文芸社	* 胃がん	2004	○
170					ガン コクチ ト がん告知一解けなかったパズル	オノ アツコ 小野厚子	立風書房	生きたいと願っている夫に、事実を告げるべきなのか。夫は事実を知りたいと思っているのか。家族は…。ふつうの妻が、告知をし、死の準備に入る夫を、娘や義母とともに見守った哀切の記録。	1993	○
171					ガン マ がんに負けてたまるか	ヨコツカ タカシ 横塚隆嗣	桐書房	肺がん、大腸がんを闘いながら、患者会活動を通じて同病の仲間たちを励まし続けた半生記。がんの発見から手術、術後の自己管理まで、がんを克服した患者ならではの体験を紹介する。* 肺がん	1999	○
172				が	ガン フーフー ニッキ がんフーフー日記	カワサキ 川崎フーフ	小学館	妊婦の妻の直腸がん発覚から、帝王切開で長男を出産し、闘病生活の末38才の若さで亡くなるまでをまとめたリアルドキュメント。ブログに大幅加筆・改稿して書籍化。	2011	○
173					ガン ツマ カエ ガンよ妻を返せ	デン ヨウスケ 田妖之介	近代文芸社		2004	○
174	消化管	大腸がん			ガン ロッカイ ジンセイゼンカイ ゲンエキ がん六回人生全快 現役バンカー 16年の闘病記	セキハラ タケオ 関原健夫	朝日新聞社	39歳で大腸がんの宣告を受けて16年。6度のがん手術に耐え抜き、社会の第一線で活躍しつづける現役の銀行役員が明かす闘病記。主治医3人との座談会も巻末に収録。『論座』連載の単行本化。	2001 2003	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
175				き	キヤンサー・ギフト ガンで死ねな かったわたしから元気になりたい あなたへ	タカハシ 高橋ユリカ	新潮社	わたしは35歳で自分のガンを知った。手術後の抗ガン剤の副作用に悩み、気功を始めた。自然治癒力を求めて食餌療法など様々な体験をし、確かな情報を得て、自分の物語を紡いでいく事に癒しを見つける。	1995	○
176				ぐ	グロウアップ ハハ、カソク、トウビョウセイカツ Grow up 母と家族の闘病生活 ジツタイケン 実体験	ハセガワ チサ 長谷川知沙	愛生社		2001	○
177				さ	さよなら さよなら さようなら	タナカ ミチ子 田中美智子	あけび書房	私、ガンです。でも、元気! 2003年秋、医者から「死の宣告」を受けた著者。ところが1年をとうに過ぎて気分爽快、食欲旺盛、死の準備は着々とすすみ…。大活躍の元国会議員がつづる、痛快洒落なエッセー集。	2005	○
178				さ	サンドメ 三度目のガンよ、来るならごゆるりと	ウメハラ タケン 梅原猛	光文社	二度のガンは私に多くのことを教えた。そのガンによって私の人生を見る目が、前と比べてはるかに透明になったことはまちがいない。ガンはありがたい収穫を私にもたらしたのだ。大腸ガン、胃ガンを克服した著者が語る。* 胃がん	2001	○
179				し	シ 死にゆく妻との旅路	シミズ ヒサノリ 清水久典	新潮文庫		2003	○
180				し	シュジュツ コウ ザイ コトワ キセキ 手術も抗ガン剤も断って 奇跡の ダイチョウ トウビョウキ 大腸ガン闘病記	ナカノ キク子 中野きく子	潮文社	大腸ガンを宣言された患者が、医者の勧める手術を断わって退院し、一家をあげての玄米菜食を中心とした自宅療法で、見事に難病を克服したがん闘病記。手術と抗ガン剤偏重の今日の医療に一石を投ずる貴重な記録である。	1992	○
181				す	センコク ステージ4を宣告されて その愛し ヒビ き日々	タカハラ 高原レイミ	ほおずき書籍	ガンの予兆の発見、告知、手術、そして転移…。ガンの手術をした著者が病気を抱えながらも自然とともに生きる姿をユーモアを交えて描いた闘病記。同じ病気で悩む人への応援メッセージ。	2006	○
182				た	タジュウ ヨクフク タイケンテキ テリョウ 多重がんを克服して 体験的治療 ガク 学	クロカワ ノブユキ 黒川宣之	金曜日	著者の前立腺がん、大腸がん、胃がんの治療体験を中心に、がん医療の現状を取り上げる。貴重な「用心と安心のガイドブック」。『週刊金曜日』に連載された「多重がんに見舞われて 体験的治療学」に加筆して単行本化。* 胃がん・前立腺がん	2006	○
183	消化管	大腸がん		だ	ダンチョウ オモ カミサマ ダイチョウ 断腸の思い エレキの神様、大腸 カ ガンに克つ	テラウチ タケン 寺内タケシ	マキノ出版	「エレキの神様」を襲った大腸ガン。ガンを機に自分の体について考え、わかったのは「ギターも体も手入れ次第」という事。明るく健康管理を説く「病気と闘わない」闘病記。執刀医による「大腸ガンの見つけ方と治し方」も収録。	2004	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
184				ち	チエディ トウビョウ ニッキ Chediの闘病日記	クサフカ チホ 草深智穂	文芸社		2005	○
185				て	テンゴク トド ネンガジョウ 天国から届いた年賀状 「がんと イ ジュウネンカン キセキ 生きる」十年間の軌跡	ハンバヒトシ 羽柴整	中日新聞社	中日新聞記者の著者が、進行がんと闘い続けた十年を、鋭い観察力と冷静な筆致で活写した闘病記。中日新聞紙上に60回連載し、「がんと生きる」として3冊発行したものに亡くなるまでの原稿等を加える。	1999	○
186				は	ハ イツショウ フラ 破ガン一笑 笑いはガンの予防薬	ミナミ 南けんじ	主婦の友社	ビートたけしのかつての師、南けんじは、ガンネタに高座で笑いを取り、ひいきの客とガンを肴に酒を飲み、大笑い。医者には、まさにガン患者の手本、笑いはガンの予防と進行を抑えるから、と言う…。	1997	○
187				ま	サイアク まだ、最悪なんかじゃないよ	ひろっちゃん	中央アート出版社	あまりにも突然の「余命宣告」。平凡なサーファーはそのときからほんとうに「生きる」ことをはじめた。2003年4月から2005年2月まで著者のホームページに掲載された日記や詩を加筆修正して単行本化。	2005	○
188					ヤクソク マッキ チチ カゾク ノ 約束 末期がんの父が家族に残した	タカハシヒフミ 高橋一二三	小学館文庫		2001	○
189				や	ヤマザクラ チ アサ シンブンキシャ 山桜、散る朝 ある新聞記者の トウビョウキ ん闘病記	モミ コ 糲とし子	あさんてさーな	「ごめんね、強くなって君を守らなければいけない僕が、こんなビニャビニャになって」そう言い残して夫は死んだ。夫の葛藤、妻の叡知、そして離島医療への提言。南海日日新聞記者・糲芳晴の闘病生活を妻が克明に綴る記録。	2004	○
190					ヤ 病みながら老いる時代を生きる	ヨシタケ テルコ 吉武輝子	岩波ブックレット	高齢化の時代、病気との共存はそれなりに覚悟せねばならないが、そのうえで、自分らしく生きるには? 「病気のデパート」である著者が体験から伝える、病気との付き合い方。	2008	○
191				よ	ヨメイハントシ 「余命半年」そして我が妻・由紀 コ 子は鶴のように舞い立った	シバユウヤ 柴孝也	悠飛社	東京慈恵会医科大学に勤務する著者の妻の、2年にわたる大腸癌の闘病記。突然のガン発覚から終末まで、自らと妻の歩みをつづる。	2004	○
192	消化管			わ	ワタリテツヤ オレ 渡哲也 俺	カンワギ ジュンイチ 柏木純一	毎日新聞社	人生なんて、言ってみれば流れる雲のようなもの。則天去私ですよ。がんの大手術から6年、寡黙な男、渡哲也はなぜ今、自らをさらけ出し半生を赤裸裸々に語るのか。初めて明かされる衝撃の事実。	1997	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少 がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
193					Xからのプレゼント 癌告知の果てに	はまの鶴子	東京図書出版		2006	○
194		大腸がん (虫垂がん)		が	がんから始まる	キシモト ヨウコ 岸本葉子	晶文社	40歳、独身。著者は虫垂がんと診断された。しかも、S状結腸に浸潤。約2年経つが、再発の不安は消えない。サポートグループに入会、漢方、食事療法、行動療法…がんを受容しながらも希望を捨てない。渾身のがん闘病記。	2003	○
195			ガンへの手紙		テラマツ タカシ 寺松隆	新生出版	命の輝きは魂から発散される光の奔流である。盲腸にできたガンを見つめつつ、闘病記、体験記とは一線を画した、思想的考察と自己止揚を目指す、ガン不闘宣言の書。	2003	○	
196			し	シジュウ 四十でがんになってから	キシモト ヨウコ 岸本葉子	講談社	女ひとり暮らし、頑張ってきたが、40歳でがんになった。あとは、がんといかに仲良く付き合っていくか…。のんびりほんわか奮闘記。『文藝春秋』等に掲載されたものを一冊にまとめる。	2006	○	
197			大腸がん (虫垂がん)		ひ	ヒト シ 人は死ねばゴミになる	イトウ シゲキ 伊藤栄樹	小学館文庫		1998
198		大腸がん (結腸がん)		う	うすむらさきのスイートピー	ホリエ タカコ 堀江孝子	日本図書刊行会		1997	○
199			お	トウ タイヨウ お父さんは太陽になった ガン闘 ビョウ ニチカン キロク 病47日間の記録	ひらたまどか	新風舎	最後に残ったのは、愛でした。働きざかりの夫にくださった、突然の末期ガン宣告。その日から、36歳という若さでこの世を去るまでを、全力で闘いぬいた夫婦、家族の絆。47日間を妻が綴る。	2005	○	
200			し	シタマチ アカ センセイ ガン イ 下町の赤ひげ先生いま、癌を生きる	キノシタ シゲタロウ 木下繁太郎	桐書房	医師自らが癌を病んだとき、どう病と向き合ったか…早くから西洋医学と東洋医学の合作医療に挑み漢方治療の大衆化に尽力した著者が、いま、死を抱きしめつつ綴る、未病を治す医療に賭けた半生と最新の癌治療体験記。	1993	○	
201	消化管		は	ハナ ツボミ 花の蕾 がんに倒れた娘への鎮魂 の記	トラタニ アイコ 虎谷愛子	里文出版	「蕾は小さな幼い子供と同じ、いつかはすばらしく成長し、開花するのよね……」27歳でがん倒れた娘の、萌え出づるような輝きを見せていたその面影、精一杯生きていた存在感を書留めた鎮魂の記。	2003	○	

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館	
202				ほ	ホタルの日記 わが子に伝える命の終章 <small>ニッキ ヨ ツタ イノチ エビローグ</small>	ナカムラミツヨ 中村光代	エフエー出版	お母さんが、最後に教えてあげられるのは、人間の命の終わり…。しっかり見てね。-尊厳死を望んだ末期ガンの母親が幼いわが子に伝える自らの「生」と「死」。揺れ動く心を素直に綴る一冊。	1993	○	
203					ほんとうに知りたいこと ガンをのりこえた最初の一年 <small>シ サイショ イチネン</small>	マック・ターネイジ アン・ターネイジ	日本基督教団出版局	ガン告知を受けた後の不安と緊張、苦しみにあっても愛する家族友人に支えられながら、信仰、希望、ユーモアを失わずに生き抜いた感動の一年。ガンと共に歩み続けた妻とその夫の記録。	1996	○	
204					も	燃えるがごとく、癌細胞を焼きつきます <small>モ ガンサイボウ ヤ</small>	ナガオヨリコ 長尾宜子	三五館	1993年、横行結腸ガンを告知され、それから3年間に7度の大手術を受けた著者によるガン闘病記。ガンと闘う権利、医師、精神のノウハウを凝縮した命の対話。巻末に著者作成の「病歴一覧表」付き。	1997	○
205				大腸がん (直腸がん)	い	いつでも君と一緒に <small>キミ イッシヨ</small>	アマツアキラ 天津章	碧天舎		2005	○
206				消化管	大腸がん (直腸がん)		う	うさぎよ永遠に ガンに命を奪われた歯科衛生士・三宅貴子「二百十日の闘病日記」 <small>エイエン イノチ ウバ シカエイセイシ ミヤケタカコ ニヒヤクトオ カ トウビョウニッキ</small>	ミヤケ タカコ 三宅貴子 ミヤケ ミツエイ 三宅参衛	鶴書院	ガンと闘い抜いた娘の克明な日記を中心に、病床での明け暮れを、時にはユーモアさえ湛えて綴った感動の一書。「娘の死闘を通してガンは必ず治ると確信した」と語る父親が、ガンに打ち勝つための挑戦を続けると誓う。
207	お	鬼よ、笑え「旅の夏」「ガンの夏」日記 <small>オニ ワラ タビ ナツ ナツ ニッキ</small>	コジマナオキ 小島直記				新潮社		1992	○	
208	が	がん告知 解けなかったパズル <small>コケチ ト</small>	オノアツコ 小野厚子				立風書房	生きたいと願っている夫に、事実を告げるべきなのか。夫は事実を知りたいと思っているのか。家族は…。ふつうの妻が、告知をし、死の準備に入る夫を、娘や義母とともに見守った哀切の記録。	1993	○	
209	が	患者がケアを求めるとき <small>カンジャ モト</small>	モリフミヒコ 森文彦				近代文芸社		1996	○	
210	き	消えるクソがん 日本一諦めの悪い芸人の闘病日記 <small>キ ニホンイチ アキラ ワル ゲイニン トウビョウニッキ</small>	タケウチ 竹内ゆうじ				ヨシモトブックス	これほどまでに、明るく諦めないがん患者がいるなんて!! 関西で活躍する芸人・竹内ゆうじは、突然がん宣告を受けた。幼い子ども3人と愛する妻に誓った「生きる」という約束。笑い涙でいっぱい闘病生活を綴る。	2008	○	

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少 がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
211	消化管	大腸がん (直腸がん)		し	しあわせになろうよ <small>ヨメイセンコク カ</small> 余命宣告6カ <small>ゲツ ヨクフク ワタクシ</small> 月を克服した私のがんサバイバル	セキグチ テツペイ 関口哲平	徳間書店	大腸ガンが再発し、余命宣告6カ月を受けた。しかし不屈の闘志で克服し奇跡の生還を成し遂げる。死にものぐるいでガンと闘い、打ち克ち、生き還るまで。命がけで知りえた知恵と、サバイバル法を綴る。	2005	○
212					50の方法 <small>ホウホウ</small>	シ <small>シュウヘン</small> 死の周辺	シオミ センイチロウ 塩見鮮一郎	三一書房	57歳になって著者は初めて死を看取った。妻、エリ、46歳。著者は動転し、混乱し、判断停止にもなった…。4年近く妻の死について考え続けた視点で、告知から、入院、在宅ケア、ホスピス、別れの会までを語る。	1996
213				じ	ジンタイ ジツケン 人体実験 ガンとのたたかい、 <small>セイ</small> 生との たたかい	シライアイ 白井愛	れんが書房新 社	ガン患者白井愛の、発病から最期までの4年にわたる壮絶な闘病記。自らの病を、ガン医療の実態を、生の意味とそのアポリアを、正面から見すえ検証し、そしてすべてを受けとめて果てた、激しくも透徹した魂のドキュメント。	2005	○
214				ば	バラ <small>イロ シオ</small> 薔薇色の塩	フシキダ ミツオ 伏木田光夫	北海道新聞社		1998	○
215				ぼ	ボク アカ <small>ショウガイシャ</small> 僕は明るい障害者 「がん」がくれ <small>オク モノ</small> た贈り物	サカイ マサト 坂井正人	アチーブメント 出版	32歳でがんを宣告され、骨盤内全摘出、大腸の40%を失い、人工肛門・人口膀胱を付着する「第4級身体障害者」となった著者。がんの宣告から、がんとの闘い、そしてビジネスを始めるまでをポジティブに綴る。	2006	○
216				ま	マミー、そばにいて	フユキ カオル 冬木薫	日之出出版	「最期までプロレスラーでいたい」と、がんを背を向ける理不尽大王・冬木弘道。最後のひと言を残し、「天国のリング」へ…。がんに向き合った妻の壮絶看護11カ月。	2004	○
217				れ	レクイエム	タキモト サチエ 瀧本祥江	日本図書刊行 会		1997	○
218				わ	ワタクシ <small>カンジャジュツ</small> 私のがん患者術	イノウエ ヘイゾウ 井上平三	岩波書店		2002	○
219			わたし、ガンです ある <small>セイシンカイ</small> 精神科医の <small>タイビョウキ</small> 耐病記		ヨリフジ カズヒロ 頼藤和寛	文春新書		2001	○	

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少 がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
220	肝臓・胆 のう・膵臓	肝臓がん		あ	アイサイキ 愛妻記	シンドウ カネト 新藤兼人	岩波書店	妻の肝臓がんの手術が終わり、残り一年余の生命と告げられたとき、夫は妻主演の映画を撮ろうと決意した。火花を散らす二人の老仕事師夫妻の凄絶な愛と慈しみの一年半を哀惜をこめて描く。妻乙羽信子の一周忌に捧ぐ。	1995	○
221					あきらめるな！肝ガン患者 私を 見捨てた大学病院、救った大学病 院	タナカコウイチ 田中孝一	コスモトゥーワ ン	画期的な肝ガン手術によって暗闇の中に一筋の光を見出した一患者の体験談を縦軸に、現在最も進んでいるといわれている慶応病院の肝ガン手術最前線を、体験した著者自身の眼を通してドキュメントタッチで描く。	2003	○
222				い	イ 生きてんの精いっぱいー人間・渥 美清	シノハラ セイジ 篠原靖治	主婦と生活社	息を引き取るまでの14年間、渥美清と一心同体だった付き人が綴る、最期の1400日間。四角い天使になった寅さんへの鎮魂歌。初公開の秘蔵写真も多数収録した、涙と苦悩の記録。	1997	○
223					イ 生きる者の記録 佐藤健	サトウケン シュ 佐藤健と取 材班	毎日新聞社	末期がんにむしばまれながらも、自らの「生」を最後まで冷徹に見据えた新聞記者。自身の最期の1カ月を、湯治場や病床の風景とともに記録する。『毎日新聞』で大反響を呼んだ魂のルポルタージュ。*食道がん	2003	○
224				肝臓・胆 のう・膵臓	肝臓がん		い	いのちと生きる	シゲカネ ヨシコ 重兼芳子	中央公論社
225	う	奪われし愛と生命「新婚さんい らっしゃい！」に刻まれたある夫婦 の物語	ナカイ カズオ 中井一夫 トダカ マユミ 戸高真弓美				出版文化社	ガンと診断され、余命半年と宣告されてからわずか137日。笑顔で亡くなったあの人は、何を残したかったのか。愛する人や子どもに何を伝えたかったのか。人気番組「新婚さんいらっしゃい！」で反響を呼んだある夫婦の物語。	2002	○
226	お	お父さん！ガンと云えずに…	ワカハラ ヒトミ 若原瞳				近代映画社		1991	○
227		おれ 俺は死なんぞ！	ヤスハラ ノブト 安原信人				早稲田出版		2007	○
228	肝臓・胆 のう・膵臓	肝臓がん						ガン手術そして二年半	アキヤマ ヒデオ 秋山秀夫	学生社

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少 がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
229					がん戦記 末期癌になった医師か らの「遺言」	ミウラ ショウイチ 三浦捷一	講談社	末期癌にかかった元癌治療医の闘い、2000日の全記録。最新医療に置き去りにされる「癌難民」をなくすため、患者の生存権を求め「医療制度の壁」に挑み続ける。法と官僚を相手にした医師の闘いの日々を綴る。	2005	○
230				が	がんよ、ありがとうがらし 二度の がん体験から見えてきたもの	オガタ マサコ 緒方真子	文化出版局	がんは、生を考えるチャンスのひとつ。そこから見えてきたものは、いとおいしい人間模様というたくさんの宝物。一度がんになった人、がんにかかることを恐れている人へ贈る、ユーモアあふれるがん闘病記。* 子宮がん	2000	○
231					ガンを切る前に読む本 医師が体 験した「切らない」新手術	マチヒデオ 町秀夫	光文社	「半年の命」と言われてからガンの克服法を研究し、生き延びてきた医師が、切らずにガンを退治する新しい手術の体験や、自分で実践したガン克服法、その背景となっている漢方医学の考え方を紹介する。	2000	○
232					ガンを背負ったクリスチャン	タカハシ マサキヨ 高橋正清	碧天舎		2004	○
233				き	煙管	タカハシ サダユキ 高橋貞行	日本図書刊行 会		1997	○
234				き	キン・コン・ガン！ ガンの告知を受 けては初期化された	ワタナベ カズヒロ 渡辺和博	二玄社	自分はガンだ。だからガンを治さないとイカン。そう心に決めたら楽になった。パソコンを初期化したときと似たりセット感があった。ナベソ画伯こと渡辺和博の肝臓ガン闘病イラストエッセイ	2004	○
235					幸せだったね、ハナちゃん	ノノヤマ ヨウコ 野々山葉子	扶桑社	素晴らしい夫だったハナ肇、その妻・葉子は夫のガンを知ったとき、悩んだ末最後まで隠し通すことを決意した…ガンとの闘いと苦悩の日々を綴った感動の記録。	1994	○
236				し	C型肝炎では死なせない	アマノ ヒデオ 天野秀雄 アマノ フサコ 天野聰子	杉並けやき会	本人にまったく責任なく肝炎ウイルスに感染した全国350万人の患者。この人たちを死なせてはならない！ 最期まで肝炎対策を訴え続けた末期C型肝炎肝硬変患者の闘病記。	2008	○
237					C型肝炎を生きる C型肝炎に感 染してしまった一人の看護師の闘 病記	オハラ カヨコ 尾原佳代子	ルネッサンス ブックス		2006	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少 がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
238	肝臓・胆 のう・膵臓	肝臓がん		す	ゼンソウ イ アラクネ テンリン ローシ 禅僧ガンと生きる 荒金天倫老師 の1、200日	スズキ ショウバン ヘ 鈴木出版編 ンシュウブ 集部	鈴木出版		1990	○
239				た	たとえ病むとも	シゲカネ ヨシコ 重兼芳子	岩波書店 (岩波現代文 庫は2000)	癌の告知から2年半、死の直前まで書き綴った、病院の日々、ホスピスや墓のことなど、悲しみを超えた感動の遺作。弱さや寂しさや孤独感を、限りない優しさにつつまこんで人々の心に希望の灯を点す。	1993 2000	○
240				び	ビョウシツ ダマ 病室のシャボン玉ホリデー ハナ ハジメ サイゴ ニチカン 肇、最期の29日間	なべおさみ	文藝春秋	ザ・ピーナッツ、布施明らが病室で演じる「シャボン玉」のコント。そして「スターダスト」のメロディーが優しく流れ出す…。肝臓ガンで亡くなった俳優・コメディアンハナ肇の、激しくも哀しい最期を克明に綴る。	2008	○
241				も	もっとイキたい ハツケツビョウ カンソウ 白血病と肝臓ガン で逝った夫とその妻の手記	ヨシノケイコ 吉野啓子	南雲堂	二人のために生きてという妻の手紙で堰が切れ 間夜の中でひとり涙す…。万葉をこよなく愛した元・NHKアナウンサー吉野正美の凄惨な手記と、励まし続けた妻の献身的看護の記録 * 白血病	1999	○
242				よ	よきデア会い ユカ 豊	タチバナ ユウ 立華優	文芸社		2008	○
243	肝臓・胆	肝臓がん		い	インシャ サイハツ 医者がガンになった 再発しても ゼツタイ アキラ トウビョウロン 「絶対に諦めない」ための闘病論	カワサキ ヘイハチロウ 川崎平八郎	新風舎	「私はガンと共存して生きる」長年、原発性肝細胞ガンに苦しむ小児科医が、ガンについてめぐらせた考えや専門医との接し方、そして専門医の対応を受け止めたときの感情を綴る。	2007	○
244				え	エイチシーシー ウタガ カンサイボウ HCCの疑いあり 肝細胞ガンとの たたか 闘い	イケダ タカシ 池田 貴	幻冬舎	5年後の生存率50%以下、3年以内の再発率70%といわれるHCC(肝細胞ガン)と闘い続ける池田貴族による書き下ろしノンフィクション。検査、告知、入院、家族の動揺、手術、手術後の日々のすべてを語る。	1997	○
245				が	ガンに生かされて	イジマ ナツキ 飯島夏樹	新潮社	フジテレビ系金曜エンタテイメントで放映された「天国で君に逢えたら」の著者が、余命宣告期限を超えて188日、最期まで綴りつづけた命の記録。新潮社ホームページ連載のエッセイに加筆・修正・編集して単行本化。	2005	○
246					ガンを生きる (幻冬舎文庫) ミュージシャンの孤独な闘い	イケダ タカシ 池田 貴	幻冬舎	「HCCの疑いあり」(1997年刊)の改題 闘病記:肝臓がん	1999	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少 がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
247	のう・膵臓	肝細胞がん		せ	セイタイカンイシヨク 生体肝移植を受けて（光文社新 書） ガンコクチ 癌告知から八四〇日の闘い	コレナガミエコ 是永美恵子	光文社新書		2003	○
248				た	タンジョウ 誕生	イケダ タカシ 池田 貴	幻冬舎	「ごめん…実は再発した。もし、もしも、おれが早く死んでも、子供をひとり育てていく覚悟はあるか？」妻の妊娠中、まさかの肝細胞ガン再発から娘・美夕の誕生までを、人気ミュージシャンが感動的に綴る。	1998	○
249				み	ミタビノカンサイボウ みたびの肝細胞ガンと向き合っ て	ヒロスエツトム 弘末勉	新生出版	63歳になるまで「肝細胞ガン」に3回も遭遇した9年間の闘病記。完治を願って、苦しみ、悲しみ、悩み、絶望しながらも「一日一生」の心で力いっぱい生きた日々の記録。	2004	○
250				よ	ヨメイサンカゲツ 余命三ヶ月のラブレター	スズキ 鈴木ヒロミツ	幻冬舎	余命3カ月」の診断。それから考えに考え抜いたこと。最愛の家族、仕事、仲間、そして人生の意味。誰もが必ず直面する「死」を受け入れることは？最期に辿り着いた「人生の至福」とは？感動のラストメッセージ。	2007	○
251	胆管がん			い	ニヒヤクニチ いのち二〇〇日	ハナオカ ツギヨ 花岡次代	風の碑社		1995	○
252				た	タビダ 旅立った妻に、ごめんね、ありが と	ヤガミカズトシ 八神和敏	ジュピター出版		2007	×
253					タンカン 胆管がん放浪記	ニヤマ ツネヒコ 新山恒彦	毎日新聞社	毎日新聞記者であった新山恒彦の胆管がん闘病記。毎日新聞社のホームページ「毎日インタラクティブ」での連載に、闘病日記、さまざまの人々から寄せられた思い出などをまとめる。	2004	○
254				に	ニンゲン 人間らしい最期を迎えたい	カノウ ミチコ 加納三千子	清風堂書店		2002	○
255				り	リツコ 律子、病魔と闘った千日	アマノクニオ 天野國男	碧天舎		2004	○
256	肝臓・胆 のう・膵臓	胆のうがん		そ	ソシテツマ そして妻は「ハッピーっ」と言い遺し て逝った	スゴウアキオ 周郷頭夫	主婦の友社	妻があと3カ月の命と知ったとき、夫は、家族は何ができるだろう…。術後から最期を迎えるまでの11カ月間、がん性疼痛に苦しめられ、時に絶望しながらも自分と闘い続け、臨終の床で「ハッピーっ」と言い遺した妻の闘病記。	2005	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館		
257	膵臓がん			あ	アイ ^{コクチ} 愛すれば告知せず	ショウノ ^コ 庄野ひろ子	小学館	私たちには、死をお互いの間に挟んで笑いながら暮らせる自信はない。父に最後まで希望を持って病氣と闘ってもらうため「非告知」を選択した著者が綴る、感動的家族愛の記録。	1999	○		
258						ある日突然、末期癌と知って	ヨコヤマクニヒコ 横山邦彦	碧天舎		2004	○	
259						い	イン ^{カンジャ} 医師が患者になるということ	ナベシマユウジ 鍋島祐次	新風舎		2007	○
260						お	オボ 『覚えていてくれよ』 父・健太郎の ソウケンシ 尊厳死	コガジュンコ 古賀順子	健友館	日本を代表する生理学者として日本尊厳死協会の設立に力をつくした高木健太郎氏が、ガンに冒され自らも尊厳死を選びとるまでを描いたドキュメント。	1993	○
261						か	カタ ^{ベカジン} 語り部歌人 ニウウインキ 入院記	トリノウミアキコ 鳥海昭子	本の泉社	膵臓十二指腸切除にいたる入院は著者にとって最初の、断崖に追いつめられた状況であった。心の、肉体の、内観を通して、生きる姿勢をただしてみたいという思いで書き始めた闘病エッセイ。	2003	○
262	肝臓・胆			が	ジョウズ ガンと上手につきあいなはれ	クロダキヨシ 黒田清	徳間書店	体内に巣食うガン細胞にユーモラスに語りかけ、なだめ、ときに罵りながら「上手につきあい」続けた、感動のドキュメント。1999年11月から2000年6月まで『アサヒ芸能』に連載されたものを中心にまとめる。	2000	○		
263						ビョウトウ ガン病棟のピーターラビット	ナカジマアズサ 中島梓	ポプラ文庫		2008	○	
264						さ	サイゴ ^{ジュギョウ} 最後の授業 イノチ ぼくの命があるうちに	ランディパウ シュ・ジェフ リーザス	ランダムハウス講談社	2007年9月18日、カーネギーメロン大学教授ランディ・パウシュが「最後の授業」を行った。癌により余命半年足らずと宣告をされた彼が残したメッセージとは。講義のキーワードをまとめた記録。DVD付き版も同時刊行。	2008	○
265							最善は尽くされたか	鎌田英治	工文社		1999	○
266							し	シチヘイ ^{タタカ} 七平ガンとかく闘えり	ヤマモト ^コ 山本れい子 ヤマモト ^{ヨシキ} 山本良樹	ベストセラーズ	ガン、そして再発。刻々と忍びよる死に、目をそむけることなく立ち向かった山本七平。冷静なる「評論家」の仮面を脱ぎ捨てて「死」の威力と闘う様に、妻と息子はその人の真実の姿を見た。	1994

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
267	のう・膵臓	膵臓がん		そ	そして父は風 <small>チチ カゼ</small> になった	イヌズカクミコ 犬塚久美子	近代文藝社		1994	○
268				て	テディベアがはこんだ夢 <small>ユメ</small>	カスガユキコ 春日幸子	講談社	「親切な方へ。ガンで亡くなった父の代わりにこのぬいぐるみに旅をさせてあげてください。」と書かれた手紙を持って、テディベアのマックの世界旅行は始まりました。99年刊の単行本に2002年までのことを加筆修正し収録。	2002	○
269					転移 <small>テンイ</small>	ナカシマ アズサ 中島梓	朝日新聞出版	2009年5月26日、ガンのため56歳の生涯を閉じた中島梓=栗本薫。作家であり、主婦であり、母であった彼女が、2008年9月から2009年5月17日、意識を失う直前まで書き続けた闘病日記。	2009	○
270				ふ	ふたりの交換日記は9月22日の たっちゃんの番 <small>バン オ</small> で終わった	ミハラミズヨ 三原瑞代	日本テレビ	たっちゃん <small>タツちゃん</small> は、涙を流して、「ごめんな」って、「ごめんな」って謝り続ける。謝る必要なんかないのに…。夫がガンに侵されたそのとき、交換日記は始まった。日本テレビ系『バラ色の珍生』で話題を読んだ自主制作本の再刊。	2001	○
271				ほ	ホスピス <small>ワタクシ ノコ</small> が私に残された唯一 <small>ユイイツ</small> の道 <small>ミチ</small> 愛 <small>アイ</small> する人 <small>ヒト</small> を看取 <small>ミト</small> って	ナカムラ ヒロコ 中村浩子	海鳥社	膵臓がんでの手術、再発、転移…そしてホスピスでの最期。最愛の人との死別の痛みの中から、悲しみを分かち合う遺族の自助サークル発会への日々を綴る。	2000	○
272	肝臓・胆 のう・膵臓	膵臓がん		も	モルヒネはシャーベットで <small>イ</small> 家で 看取 <small>ミト</small> った死	ハタエノブコ 波多江伸子	海鳥社	モルヒネのシャーベットは甘くておいしい痛みどめだった。母のすい臓がんの発症から死までの5ヵ月間、「家で死ぬということ」について考えた著者による“優しい死”のすすめ。1992年刊の再刊。	1995	○
273				ゆ	ゆびきりげんまん <small>イ オット</small> ガンで逝った夫 と妻の“恩愛 <small>オンアイ</small> の記”	タカハシ エツシ 高橋悦史 タカハシ ミツヨ 高橋光代	主婦と生活社	すい臓ガンであることを自ら公表し、人間の尊厳を問いかける壮絶な闘病生活を送った夫の姿を、妻の目から綴る。家族や友人にあてた手紙と、本人によるガン闘病日記も併せて収録	1996	○
274				よ	余命 <small>ヨメイ</small> を知った社長 <small>シ</small> の<超泣 <small>シヤチョウ</small> き笑 <small>チョウナ</small> い> 経営日誌 <small>ケイエイニッシ</small>	ミヤワキ ジュンジ 宮脇純治	明日香出版社	「長くてあと半年です」48歳の春の日の突然のガン宣告。そのとき人は何を考え、どう行動するのか。「うめきとため息」を笑顔につつまみながら、経営の先頭にたちつづけた「パルポート」社長の手記。	2000	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少 がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館	
275	泌尿器	腎臓がん		い	いつのまにか朝日 ^{アサヒ} が 癌 ^{ガン} という経験 ^{ケイケン}	タケダ ヒデオ 武田秀夫	現代書館	ほんとうにぼくは、遠からず死ぬのだろうか…。癌の発病、そして入院。死の可能性に直面した時にどんなことを思い、どのように自らを支えようとしたかを、自らの体験から綴る。	1996	○	
276					いのちの ^{カギ} 限りを ^{ニジュウ} 二重 ^コ がんを超えて	クマガイ サチコ 熊谷幸子	海竜社	* 子宮がん	1988	○	
277				が	ガンと仲良 ^{ナカヨ} く生き延びようよ	コサカ タダオ 小坂忠雄	文芸社		2008	○	
278					ガンと道づれ ^{ミチ}	ハチヤ アキコ ハチヤ タカシ 蜂谷章子 蜂谷隆	明石書店		1992	○	
279					ガン ^{ノウシュツケツトウビョウキ} ・脳出血闘病記	タニムラ ミツオ 谷村光夫	日本図書刊行会	ガンを確実に治す薬や治療法は未だないが、ガンを撲滅する方法はある。身体の内側から生命力を創り出し、ガン細胞を撲滅させる方法を紹介する。	1998	○	
280					け	ケイコ ニッキ 敬子の日記	ウエダ ケンイチ 上田謙一	碧天舎		2003	○
281					こ	コニタンの闘病日記	小西博之	太陽エージェンシー		2005	×
282					し	死をおそれないで生きる がんになっ ^イ たホスピス医の人生論 ^{ジンセイロン} ノート	ホソイ ジュン 細井順	いのちのことば社	「死さえも人生の一部である」著者自身のがん患者としての体験とホスピス医としての経験をふまえて、豊かな生き方、納得した終わり方について考えた人生論ノート。	2007	○
283					腎臓がん		だ	ダンガイ トシ 断崖の年	ヒノ ケイゾウ 日野啓三	中央公論社	
284		副腎がん	○	し	シンク 真紅のバラを37本 ^{ホン}	タカハシ ヤスヨ 高橋穩世	日本看護協会出版会	厚い胸のたくましい夫に、太陽のように輝く息子。二人の家族を、癌によって失った女性の手記。昭和58年新声社刊の新装版。* 顎下腺腫瘍	2001	○	
285					いい人 ^{ヒト} はガンになる	ヨシカワ ユウイチ 吉川勇一	KSS出版	タバコ、酒、食べ物、公共機関、生命保険、障害者手帳、妻、親きょうだい…。「闘病」を通して見えてくる、ガンとの爽快な付き合い。自らの体験を通して、ガンと共にある暮らしを語る。* 胃がん	1999	○	

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少 がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
286	泌尿器	膀胱がん			イシヤ ダイヨウジョウ 医者の大養生	スギウラ アキヨシ 杉浦昭義	講談社出版 サービスセン ター	「医者の不養生」なんて誰が言った? 自らガンを克服した医師が贈る、読んで笑って健康になる面白エッセイ。ガンとの奮闘、診察室のウラ話、好奇心いっぱいの旅行記などをユニークな筆致で描いた42篇を収録。	1997	○
287			お	ヨウキ カンジャ シンキンコウソク オレは陽気ながん患者 心筋梗塞 もやったぜ!	ヤマナカ ヒサシ 山中恒	風媒社	これまでの医師对患者の概念や図式を壊して、病気をはさんで医師と患者が人間らしい関係を修復していくには? 自らの膀胱がんと心筋梗塞の入院体験をもとに、その手がかりを探る療養エッセイ。95年ベストセラーズ刊の増補。	2000	○	
288			さ	サイレント・ガーデン タイイン ホウヨク キャロティンの祭典 滞院報告・ サイテン	タクミツ トオル 武満徹	新潮社	世界的な作曲家タケミツが四カ月あまりにわたって書き続けた病床日記「滞院報告」と、並行して書かれた絵入りの51品のレシピ「キャロティンの祭典」を手描きのままカラーで収録。	1999	○	
289				ニシビョウトウ さらば西病棟	あんどうただ すけ	文芸社			2007	○
290	前立腺がん			あ	マ キ アツという間に、消えちゃった。ガ ン患者が書いた「切らずに治す」重 リウシセンチリョウ 粒子線治療	シマザキ ヤスヒコ 島崎保彦	K&Kプレス	前立腺ガンを患った著者が体験した「切らずに治す」重粒子線ガン治療。重粒子線って何? 切らずにガンが治るって、本当なの? などよく聞かれることについて、医学やガン治療の知識のない患者の立場からまとめる。	2005	○
291			が	ガン ヨネナガリユウ ゼンリツセンガン 癌ノートー米長流 前立腺癌への サイゼンシュ 最善手	ヨネナガ クニオ 米長邦雄	ワニブックスP LUS新書	2008年春、前立腺癌と診断された。手術か、放射線療法か、ホルモン療法か。長考の末に永世棋聖が選んだ最善手とは? 「男の命」から尿漏れの心配まで癌との戦いを赤裸々に書き尽くす。	2009	○	
292				さ	コフ ソウキハツケン タイセツ がんは怖かった 早期発見の大切 さ	ヒフミ さかい一二 三	文芸社	男性をやめるか、人間をやめるか、究極の二者択一を迫られる! 前立腺ガンを克服した著者の貴重な記録。がんの早期発見と闘病のノウハウについて、豊富な資料をもとに、適切なアドバイスを提供する。	2008	○
293				ガン オ 癌を追ってーある貴重な闘病体験	イシ ヒロミツ 石弘光	中公新書ラク レ	父親と同じ前立腺癌が発見され、全摘出手術を受けた著者が、執刀医との遣り取りから家族との交流まで、経済学者の厳正な目と温かい人間観察を併せ、あますところなく記す。	2010	○	

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
294	泌尿器	前立腺がん			ガン ^{カカ} を抱えてガンガーへ ^{セイ シ} 性と死の不安と向き合う	タカガキ ^{チュウイチロウ} 高垣忠一郎	三学出版	癌を抱えて、性や死の不安と向き合う。それは「インドの旅」と同様、僕の「異界」への旅。癌と向き合い、体験したことや考えたことを綴る。	2002	○
295			き	キツガン 拮癌	ヤマノウチ ^{トシオ} 山内利夫	論創社		2003	○	
296			し	シ ^{ジュンビ キョウイク} 死への準備教育	ハーバート・クレイマー ケイ・クレイマー	読売新聞社		1996	○	
297			し	シ ^{ジュンビ キョウイク} 死への準備教育 ^{フサイ} クレイマー夫妻の対話	ハーバート・クレイマー ケイ・クレイマー	読売新聞社	67歳の広告マン、ハーブは、前立腺ガンであと1年の命と宣告される。セラピストの妻と、生と死の意味、愛、性について語り合ううちに、次第に希望と安らぎを持つようになる。死を見つめる熟年夫妻の心の交信の記録。	1995	○	
298			ぜ	ゼンリツセン ^{ガン} コクフク 前立腺癌を克服して	ツルオカ ^{シンイチ} 鶴岡信一	善本社		2005	○	
299			た	タジュウ ^{コクフク} 多重がんを克服して ^{タイケンテキキ チリョウ} 体験的治療 ガク学	クロカワ ^{ノブユキ} 黒川宣之	金曜日	著者の前立腺がん、大腸がん、胃がんの治療体験を中心に、がん医療の現状を取り上げる。貴重な「用心と安心のガイドブック」。『週刊金曜日』に連載された「多重がんに見舞われて 体験的治療学」に加筆して単行本化。* 胃がん、大腸がん	2006	○	
300			つ	ツマ 妻とがんととの狭間で	キクチ ^{ヨシオ} 菊池良男	新風舎		2007	○	
301			と	トウビョウ ^{カンジャ} シンリジジョウ 闘病患者の心理事情	コシロオサム 胡代戢	近代文芸社		1996	○	
302	前立腺がん			の	ノ ^{セイメイ} 残された生命をいかに生きるか	スギハラ ^{テルオ} 杉原輝雄	主婦と生活社	1997年暮れにガン宣告を受けながらも、手術を拒否し、ツアープロとして勝利へのあくなき執念を見せ闘う男・杉原輝雄。そのゴルフ哲学、そして残された人生や周囲の人々への思いを込めて綴られた本。	1998	○
303			ぼ	ボク ^イ 僕は生きるぞ、生き抜くぞ！ ^イ ガン患者 ^{カンジャ} が書いた ^カ 重粒子線治療 ^{ジュウリョウセン} 、その ^{チリョウ} 後、3年	シマザキ ^{ヤスヒコ} 島崎保彦	K&Kプレス	前立腺ガンの患者が、高度先進の重粒子線治療を受けて、その後3年。その「Quality of life」は、どうだったのか？ ガン治療後の本当の様子を綴った、患者本人による実録。	2007	○	

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少 がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
304	泌尿器	精巣がん		み	ミチ サンカ トウビョウ 道づれ賛歌 がんの闘病でまなぶ	ミクニリュウザ 三國隆三	展望社	医者がさじを投げたがん患者が生還した。著者の前立腺がん闘病記などを交えて、治す力、癒す心をさぐる。太く、長く「セカンドライフ」を生きるための最新情報つき健康ガイド。	2005	○
305			わ	ワタクシ キジマノリオ タタカ ガン オ 私と木島則夫の闘い 癌と老いと ニチ の2500日	キジマ キヨコ 木島喜世子	リム出版	2500日に及ぶ夫の病との闘い。そして、安楽地だったはずの老人ホームへの怒り。NHKのアナウンサーをふりだしに、政治家としても活躍した木島則夫と夫人が、誰もが抱えなければならない問題を痛切に訴える。	1991	○	
306			た	タマトリ モノガタリ 玉取物語	ナガタ マサカズ 永田雅一	ベネッセ		1997	○	
307			な	難治性精巣腫瘍闘病記	バチ	ホンニナル出版		2008	×	
308			ら	サイ ユイゴン ラフラ24歳の遺言 あるラッパーの ショウガイ 生涯	エダチ ヨシコ 枝口芳子	ポプラ社	ラフラ・ジャクソン。彼が遺したものは、CD3枚、ライムを書いたノート3冊、それに多くの絵。日本人の母親とアフリカン・アメリカンの父親、二つの血を駆け抜けたラッパーの鮮やかな人生の記録。	2001	○	
309			○	が	セイカン コクチ イチネン がんからの生還 告知から一年、 トウビョウ 闘病レポート	サイカワ タカスミ 西川孝純	朝日ソノラマ	政治記者の激務をこなすなか、癌を告知され、リンパ節腫大の摘出手術、検査入院、化学療法、がんセンター入院と、本人も家族も大わらわの一年を過ごし、小康を取り戻した著者の克明な闘病記。* 胚細胞腫瘍	1996	○
310			○	あ	あきらめるのはまだ早い	イワキトシユキ 岩城世幸	ミッドナイト・プレス		1991	○
311			○	が	ム ア がんと向き合って	ウエノ ハジメ 上野創	晶文社	26歳の新聞記者が突然ガンの告知を受けた。直に左睾丸の切除の手術を受けたが、ガンは肺全体に転移していた。心配なのは恋人のこと。ところが彼女は、満面の笑顔で言ったのだった。「結婚しよう」と。新聞連載を単行本化。	2002	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

番号	部位	病名	希少 がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館	
312	女性	乳がん		あ	あなただって「がん」と一緒に生き られる 自らも患者である医師に 学ぶ「がん」に負けない生き方	オグラツネコ 小倉恒子	KAWADE夢新 書(河出書房 新社)		2002	○	
313			アマゾネスのように		ナカジマ アズサ 中島 梓	集英社		1992	○		
314			アメリカで乳がん ^{ニユウ} と生きる		マツイマチコ 松井真知子	朝日新聞社	千葉敦子の凄絶な闘病から13年、アメリカのがん治療は大きく変わった。アメリカでがん告知を受けた日本人社会学者が、自らががん医療の最新現場を調べ、死と生と新たな出会いについて考える。末期がん患者の体験的レポート。	2000	○		
315					い	「いのちの授業」をもう一度 がん と向き合い、いのちを語り続けて	ヤマダ イズミ 山田泉	高文研	国東半島の里山の学校。子どもたちとぶつかりあい、笑い、涙してきた山ちゃんによる「山びこ学校」のアーカイブス。教育行政への、現場からの叫び声ともいえる一冊。11年間書き続けた「保健室日記」ほかをまとめ単行本化。	2007	○
316						ウィズ・ユー	ドバシヨウタツ 土橋弘達	東洋出版		2006	○
317					う	Willー眠りゆく前に	オグラツネコ 小倉恒子	ブックマン社	がんと闘い続けて19年。再々発、そして全身20カ所以上の転移。けれど負けず嫌いな私は強く生きる。仕事のために。我が子のために…。生きる勇気が湧いてくるノンフィクション・メッセージ。	2006	○
318						ウラギ 裏切られたガン患者たち	イワマツヒサオ 岩松久保	五月書房	末期ガン患者は病院に見捨てられてしまうのか。ガン治療で医療機関に入院した人々の声をもとに医療現場の実態を物語風に綴り、医療現場改善のための問題提起を行う。* 転移性皮膚がん(鎧状がん)	1999	○
319					え	絵門ゆう子のがんとゆっくり日記	エモン 絵門ゆう子	朝日新聞社	時にゆっくり、時にいそがしく、そしていつもニコリ。今日を生き、明日を信じ、命尽きる時まで、がん患者とその家族のために全力でつづり続けた命のメッセージ。『朝日新聞』東京版連載の単行本化。	2006	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
320	女性	乳がん		お	オオゾラ マユミ タジュウ ゲキタイチュウ 大空真弓、「多重がん」撃退中！ ニュー イ ショクドウ 乳がん胃がん食道がん	オオゾラ マユミ 大空真弓	宝島社	乳がんの手術から5年、転移ではなく胃がん発症、続いて食道がんも…。女優・大空真弓は「モグラたたき」のようにがんを先手で撃退してきた。「こんな患者みたことない」と医者も驚く多重がん患者・大空真弓の戦い！ * 胃がん、食道がん	2005	○
321					おっばいがたいへん!! 乳がん治療 ニッキ 日記	ニュー テリョウ さかいひろこ	日本放送出版協会	乳がん手術を受け、現在もホルモン療法真っ最中の漫画家が、乳がん告知から入院・手術・退院、放射線治療、ホルモン療法まで、自身の経験を綴ったまんが治療日記。乳がん情報も多数収載。	2007	○
322					おっばいがフタニつほしい 私が選ぶ チフサ サイケン 乳房再建	ウチダ エイコ 内田絵子と ジョセイ イリョウ 女性の医療 カンガ カイ を考える会	北水	夫の仕事に伴ってシンガポールに滞在していた時、乳がん摘出手術、5カ月にわたる抗がん剤治療、乳房のふくらみ・乳輪・乳頭をつける乳房再建手術を体験した女性を中心となって、乳房再建手術についての情報を提供する。	2001	○
323					おっばいの詩 21歳の私が、どうして ニュー 乳がんになっ	オオハラ 大原まゆ	講談社	21歳の若さで乳がんになった女性の闘病記。10年生存率75パーセント、だけど私はけっこう幸せ!「楽しいことはしっかり楽しみ、悲しいことには慣れる」の精神で免疫カアップ!	2005	○
324					おっばいの涙：乳がん闘病体験記 ：まんが	ナミダ ニュウ トウビョウ タイケンキ ノグチ ユミコ 野口弓子	ぶんか社		2005	○
325					踊りながら私はいこう ホスピスか デンゴン らの伝言	ウエハラ クミコ 上原久美子 ウエハラ カズハル 上原一治	南方新社	「鹿児島ホスピスを考える会」の発起人としてホスピスの重要性を伝え続けた著者。自らもがんを患い、2度の再発を経て、ホスピスで静かな最期を迎えた。ひとつの選択肢であるホスピスのすばらしさを残された手記が語る。	2002	○
326					かえるノート 乳がんになって私が エラ ミチ 選んだ道	かえる	知玄社		2007	○
327					かぜ 風のつらら	シバサワ ナオヤ 柴沢真也	鳥影社	「長年連れ添った人を家で看取るのは、よほど強い気持ちじゃないとできませんよ」医師にそう言われた夫はしかし、乳ガンから皮膚に転移した末期ガンの妻を在宅で看取った。1組の夫婦の、ある愛の形。	2009	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
328					カノジョ ニュウ 彼女が乳がんになって考えた	ブレンダン・ハルピン	ソニー・マガジンズ	ある日突然試練が訪れた。妻が乳がんを宣告されたのだ。それも第4期だという。いったいどうしたらいいのだろう…。乳がんになった妻とその夫が直面するリアルな心の揺らぎを、あふれるユーモアと涙と笑いで綴るエッセイ。	2003	○
329				か	カンジャ 患者からのカルテ	サハラ ヨウコ 佐原 蓉子 サハラ リュウシ 佐原 竜誌	エミール社・ルック		1995	○
330					がけつぷちナース がんとともに生きる	ヤマウチ リカ 山内 梨香	飛鳥新社	自分が乳がんになるまで、病気は他人事だった…。がんになっても、転移していても、がけつぷちでも、私はこんなに元気で生きている! 乳がん、転移、再発を繰り返しながらも、乗り越えているナースの体験談。	2009	○
331					がんingマイウェイ 経験をプラスに変えてきた私の闘病Q&A	フジモト マチコ 藤本 真知子	同時代社		2007	○
332					がんから教わるワンショットセラピー	ナカモト マサコ 中本 雅子	文芸社	41歳まで超健康だったのに、胸のしこりを発見して世界が一変した。ガンになった時、ガンを敵にしたり屈服するのではなく、闘病の日々を振り返り、名もない花の花びらが一枚だけ残るような、そんな新しい形のガン体験記。	2002	○
333	女性	乳がん		が	がんからの出発	ワット 隆子	医学書院	がんとの闘い、あけぼの会の会長としての責務との奮闘、そして妻として母親としての役目を十分に果たせなかったのではというすまなさとの葛藤、そして、がん患者から医療従事者、特にナースたちに向けての挑戦的な注文を続けた著者の「格闘記」。	1992	○
334					ガンからのストレス脱却へ 患者としての医療への要望	マエダ カズ 前田 和	近代文藝社	病んでも輝きを生み出す「活性化」とは。更に、患者としての医療への要望とは。癌とのつきあい生き生きと。* 卵巣がん	1995	○
335					ガン患者が病院から追われるとき	イワマツ ヒサオ 岩松 久保	主婦の友社	ガンで入院した病院から退院を強制される、そんなことが許されるだろうか。しかし著者の妻は、臓器移植の美名のもとに、病院を追われた。日本の病院と患者との間にくすぶる問題を提起したドキュメント。* 転移性皮膚がん(鎧状がん)	1994	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少 がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
336					ガン ^{コクチ} 告知のあとで なんでもないことが、こんなにうれしい	スズキアヤコ 鈴木章子	探究社 新書版	斜里大谷幼稚園を創設し自ら園長も務めるが、乳癌の宣告を受け入院。熱心な仏教徒で僧籍も持つ著者が、死の間際まで書き続けた、自身にまつわるエピソードや数々の詩を収録。1989年刊の新装改訂版。	2000	○
337					ガン ^{ジンセイ} 人生	シオザワトキ 塩沢とき	データハウス	* 舌がん	1992	○
338					がんだから上手 ^{ジョウズ イ} に生きる	タハラセツコ 田原節子	海竜社	それは悪性の乳がんだった。余命半年の宣告から奇跡の5年を生きて、今だから言えること。家族、主治医、病院、仲間、すべてに支えられて闘病はできる。希望ある一日一日を、命をかけて生きる著者渾身の愛といのちの記録。	2004	○
339					がんでも私 ^{ワタシ フンギ} は不思議に元 ^{ゲンキ} 気	エモン 絵門ゆう子	新潮社	「がんの全身転移」を告白し、私の生活は一変した。日々忙しく駆け回るなか綴った自身の病状、医療の実態そして患者の本音とは。2003年刊「がんと一緒にゆっくりと」に次ぐ第2弾。再び全てを語ります。	2005	○
340					ガンと生きる ^イ けっしてあきらめないで	ワットタカコ ワット隆子	あけぼの会		2003	○
341				が	がんと一緒にゆっくりと ^{イツショ} あらゆる ^{リョウホウ} 療法をさまよって	エモン 絵門ゆう子	新潮社	気功・温灸・食事療法から先端医学まで、全身のがんを治そうと手当たり次第に試して分かったことは。元NHKアナウンサー・池田裕子が綴る、恐怖、涙、そして笑いが詰まった元気になる闘病記。	2003	○
342	女性	乳がん			ガン ^{ワタクシ キョウドウセイカツ} と私の共同生活	タワラモエコ 俵萌子	海竜社	たとえ明日再発しても、今日は今日の夢を生きる。癌と真摯に向き合った一年半にわたるドキュメント。癌が抱えている現代医学の問題点を患者の目から提示する。	1997	○
343					がんになってきこえた唄 ^{ウタ}	フキヤアユミ 福谷歩	日本文学館		2003	○
344					ガン わたしは幸福 ^{シアワセ} (しあわせ)に死ぬ ^シ	ミタライユミ 御手洗佑美	主婦の友社	「人は地球の旅人」と言っ、53歳で旅立ったチャイナペインター。死の3か月前から、大学時代からの親友が聞きとったりインタビューしたりしたものを1冊にまとめた。死を真正面から見据え明るく生きて逝った記録。	1995	○
345					がんを道連れ ^{ミチズ} に13年 ^{ネン} いのちを見 ^ミ つめて	ミヤオシゲコ 宮尾茂子	未来社	再発につぐ再発のなかで、書くことによって自分の死を対象化すると同時に、他者の生と死に近づき寄りそう日々を重ねてきた著者。終末期を人間らしく生きるためにがん患者とその家族はどう生きればよいかを問い直す。	1997	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
346				き	きつと良くなる必ず良くなる 多重 がんとの闘いの記録	ヒロノ ミツコ 広野光子	PHP研究所	乳がん・卵巣がんの二つを病んだ著者の、5年を生き抜いた記録。重篤ながんを病んでも現代の医療と人の持つ自然治癒力を信じて闘病すれば、予後明るく楽しく生きられるという励ましの書。*卵巣がん	1998	○
347	女性	乳がん		き	キョウ ゲンキ 今日も元気で！ 看護婦・母乳が ん患者	イデ マチコ 井手真知子	北水	車いす生活を経験した少女は看護婦になる夢をかなえた。しかし待っていたのは、夫の皮膚ガン、母の腎ガン、そして自らの乳ガン…。それでも太陽に向かうひまわりのように前向きに生きる著者のエッセイ。	2001	○
348					「キレイに治す乳がん」宣言！	ヤマザキ タカコ 山崎多賀子	光文社	美容ジャーナリストが直面した、乳がんという現実。現代の女性にとってキレイであることがどれほど大きな力を持つか、また最先端の治療のことまで、患者の視点から著者ならではの独自の切り口で紹介する。	2007	○
349				こ	コフ 怖がらないで生きようよ がんと共に ウセイ イン 生する医師のポジティブ・ライフ	オグラツネコ 小倉恒子	講談社	乳がん手術、離婚、そして再発、転移…。乳がんになってからの15年、がんと無理に闘わず、かといって逃げもせず、自然体で生きてきた著者。医師ならではの抗がん剤副作用対策、代替療法、暮らしの工夫の数々も語る。	2002	○
350					サイハツゴ 再発後を生きる	イデアフォー	三省堂	乳房再建手術のこと、恋もできるよということ、自分自身がまだあきらめていないということ…。死ぬ瞬間まで精一杯生きていたい！再発後を生きる21人の乳がん患者の実名手記	2003	○
351				さ	ササ ニュウ 支え 乳がんからの生還	モリシタ マサミ 森下雅美 モリシタ サトミ 森下里美(アン☆ドウ)	講談社	30歳、突然の乳がん宣告-。一卵性の双子タレント「アン☆ドウ」の森下雅美が、乳がんの発見、闘病生活、結婚、アン☆ドウの結成から東京進出までを綴る。妹・里美のサポート記も収録。	2008	○
352					サイ 34歳でがんはないよね？ ある ジャーナリストの揺れる心の軌跡	ホンダ マユミ 本田麻由美	エビデンス社	「生」に固執して闘う姿は、浅ましいか-。乳がん患者として体験した心の叫びを綴る一方で、新聞記者ならではの視点で医療問題を見据え、自らモデルケースとなって「生」を探り続けたノンフィクション。	2008	○
353					シ 知っておきたい乳癌	セキグチレイコ 関口礼子	リベルタ出版	年々、増え続ける乳癌患者。ある日突然、乳癌罹患を告げられたら、仕事は？ 家庭は？ 入院費用は？ 「男だから」といって乳癌のことを知らずに済ませるわけには行かなくなった。いざというとき慌てふためかないための一冊。	2007	○
354					シ 「死の淵」から	ハラヒロコ 原宏子	新生出版		2008	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少 がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
355					シボウリツヒヤク 死亡率百パーセントを生きる ある アイ シ キロク 愛と死の記録	キハラフイチ 木原武一	新潮社	乳癌の発病、余命3か月の宣告…。しかし、妻はホスピスから奇跡的に退院し、濃密な3年を生きて、逝った。生の歓びと死への怖れ。克明に描かれた、ある夫婦の10年間の記録。	2000	○
356				じ	ジョイ ニュウ 女医が乳がんになったとき 34歳。 ワタクシ ヤマイ オ 私は病に侵された。でも、負けな かった。	オグラツネコ 小倉恒子	ぶんか社文庫		2005	○
357				す	スマイル ゼツボウ ヨロコ カ ジョ 絶望を喜びに変えた女 セイ キロク 性の記録	ドイノフミン 土居伸光	光文社	医者に見放されて、初めて道は開かれた。病院での治療を受けない代わりに、末期ガンという不幸な出来事に押しつぶされることなく、前向きなものへと転換し、最期まで微笑んで逝った妻の闘病記録。	2000	○
358				ず	ずっとママでいたい	マイニチ ホウソ 毎日放送 ウヴォイス 「VOICE」編	双葉社	「ママの病気も、頭の中のガンも、全部なおりますように-」乳ガンと闘いながら命がけて次女を出産し、「家族に残された時間」を全力で生きた土江絵美さんが残した家族の尊さを描く真実の物語。	2008	○
359				そ	その夏、乳房を切る めぐり逢った シセイカン 死生観	シンハラ アツコ 篠原敦子	創栄出版	右胸から腋の下にかけて、電光石火のごとく散る、鋭い痛みを覚えた。「悪性です」と告げられ、その場で手術日が決められた…。闘病記にとどまらず、21世紀の今を生きる女性を映し出したドキュメンタリー。	2008	○
360	女性	乳がん			ソプラノナース乳がん奮闘記 ～ 合唱団の仲間へ～	四戸由香	らくだぶっく(文 庫版)		2008	×
361				た	たたかいはいのち果てる日まで イン ナカアライクニオ アイ ジッセン 医師中新井邦夫の愛の実践	ムカイショウコ 向井承子	エンパワメント 研究所	障害者の地域における暮らしを支えるシステムはどうあるべきか。自らの死に至る病をかえりみることもなく、その答を求め続けたひとりの医師の壮絶な生きざまを、同時代を共に生きた人たちの「記憶」を中心に描く。	2007	○
362				だ	ダイジョウブ 大丈夫だよ、がんばろう！ 私も、 ワタクシ 乳がんと闘っています	ヤマダクニコ 山田邦子	主婦と生活社	TV収録中に感じた不安、診断を受けるまでの心の葛藤。乳がんに対してどう考え、どう行動したのか。そして、今、改めて思う、感謝と決意とは…。がんになっても自分らしく生きるための、邦ちゃんからの本音メッセージ。	2008	○
363				つ	ツマ ニュウボウ ニュウ アル フタリ 妻の乳房「乳がん」と歩いた二人 ジュウロクネン の十六年	ムライ クニオ 村井国夫 オトナシ ミキコ 音無美紀子	光文社	16年前に左乳房の摘出手術を受け、過酷な乳がん戦争を生き抜いてきた音無美紀子が、手術方法への悩み、喪失感からのうつ病体験等の事情を、苦楽を共にしてきた夫・村井国夫と共に綴る。	2004	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
364					ツマ ヨメイ 妻の余命	ニシナシゲオ 仁科滋夫	幻冬舎ルネッサンス(ルネッサンスブックス)		2006	○
365	女性	乳がん		て	テンゴク マ 天国なんか待たせておけ！ わたしの乳がん日記	エリザ・セグレイヴ	三田出版会	離婚、2人の子供、恋人、ライターとしての野心と悩み、パーティ…そして乳がんと向き合ったロンドンの日々を綴る。	1997	○
366					トウガン ホウロウキ 闘癌放浪記	キンモト ヒデオ 岸本英雄	近代文芸社	ホスピス、そこは合法的安楽死施設か、姨捨山か。妻への癌の宣告、そして転移。名医の噂、民間療法に翻弄されながら、ただ妻の完治を祈った夫の真摯な記録。	2004	○
367				と	トウキョウ ソ ヒ 東京タワーがピンクに染まった日 イマ イ 今を生きる	アグネス・チャン	現代人文社	芸能、大学教授、ボランティアなど多方面で活躍するアグネス・チャンが、自身の乳がんの闘病体験から学んだ様々なことを綴り、ピンクリボン運動の意義を訴える。	2008	○
368					トフ カカ ハハ 永遠へ ガンを抱えた母から、まだ オサナ フ コ テガミ 幼い我が子への手紙	ヨコウチ ミチヨ 横内美知代	ソニーマガジズ	乳ガン発症、乳房摘出、妊娠中の婚約者の失踪、ガン再発の中での出産、ガン再々発…。それでも私は、あなたがいたから生きている。病と闘いながら、ひとりで子育てを続けるシングルマザーの、心からのメッセージと記録。	2005	○
369					ニユウ イ チカラ ヨメイ 乳がんが生きる力をくれた「余命 サンネン センゴク カコク 三年」の宣告をのりこえ苛酷なラ リーにいのちを燃やす愛と勇気と チヨウセン ジンセイ 挑戦の人生	ノンロリツコ 能城律子	宙出版	62歳、しかも両乳房を喪った体でハンドルをにぎり「マスターラリー」で全長9千キロの砂漠と草原を疾走。人生、いつだって「今」がスタートという著者の「生」への賛歌。	1997	○
370					ニユウ ゼンテキ シュジュツ 乳ガン全摘手術 ドキュメント	イトウドシコ 伊藤敏子	健友館	突然襲うガン、中でも乳ガンは女性の生き甲斐をも奪いかねない恐怖の一撃である。乳ガンに襲われ、精神的葛藤の中で生きる道を探り当てた女性の姿を描く。	2000	○
371					ニユウ ドクターズ ショッピング 乳ガン医師選択権(ドクターズショッ ピング)	ナカハマ ジュンコ 中濱潤子	小学館文庫		2000	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
372					ニュー 乳がんなんかで泣かない ホホエ 微笑みに変えるまで	ナミダ 涙を カイ リボンの会	扶桑社	近年増加の一途にある若年性乳がん。若くして乳がんの告知を受け「なぜ自分が?」と運命を呪い、パニックに陥った女性たちが、自分を見つめなおし、とことん納得のいく治療法を探しあて、新しい人生を迎えるまでの感動の手記。	2004	○
373					ニュー 乳ガンなんかに敗けられない	チバアツコ 千葉敦子	文春文庫		1987	○
374					ニュー 乳がんの歩きかた モノガタリ 50の物語	アル 余命を生きる ヨメイ イ タムラ 田村まり子・ フタマツ ヒロキ 二松啓紀	文理閣	ひとりの女性が末期乳がん診断を受けて4年。未承認薬がくれた新しい人生は、通院治療、家事復帰、ショッピングや夫婦旅行、初孫の誕生へと続いていく。患者、家族、医療関係者に「人生の質」を考えさせる闘病記。	2007	○
375					ニュー 乳がんのうた	イテイ 市井ノリ子	保健同人社		1990	○
376					ニュー 乳がんの女医が贈る乳がんが再 ハツ 発した人の明るい処方箋	ジョイ オク ニュー サイ オグラツホコ 小倉恒子	主婦の友社	長年、乳がん向き合ってきた女医が、乳がんの治療法や、精神的にタフな人間になれる方法、全身転移という状態でも元気に、毎日を楽しく送る秘訣などを語る。ヘア・メイクの秘密プロセスも紹介。	2009	○
377				に	ニュー 乳がんは女たちをつなぐ セカイ ら世界へ	オンナ 京都か キョウト オオツノリコ 大津典子	藤原書店	それは京都の小さな乳がんクリニックから始まった。自ら乳がんの温存手術を受け、同病の友の支えによって生きる力を取り戻した著者が、乳がんを共有する中でお互いに心を開き、絆を結び直していく女たちの姿を描く。	2006	○
378	女性	乳がん			ニュー 乳がんはなぜ見落とされたのか ヨメイ 「余命半年」の私にできること	ミオ アサヒシンブン 朝日新聞「乳 ケンシン がん検診」取 イハン 材班	朝日新聞社	検診で乳癌を見落とされ、余命半年の告知を受けながら、検診制度の見直しを訴えて歩いた女性の手記と、多数のメディアで取り上げられ、厚生労働省に制度の見直しを決断させた朝日新聞キャンペーン記事から成る一冊。	2004	○
379					ニュー 乳がん 私の決めた生き方 インチ ある命を花のように	ワタクシ キメ イ カタ カギ ミヤタミノリ 宮田美乃里	リヨン社	思いもよらない乳がんの宣告。悩んだ末の選択は「治療は受けない」。無理をせず、あるがままの、与えられた命を生きたい。それが私の願い。がん治療をしないって、そんなに悪いことですか?	2003	○
380				の	のぞみを胸に	ハマナカカズコ 浜中和子	ガリバープロダクツ	すべての人にいつか死はやってくる。だからこそ、一日一日を大切にして、最後までのだぞみを胸に持ち続けて生きていこう。乳がん患者にして医者でもある著者が、自らの体験を率直に語る。	2004	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
381				ぱ	パリの ^{ニホン} おっばい日本の ^{ニホン} おっばい ガン治療先進国での体験から	キダチレイコ 木立玲子	集英社be文庫		2003	○
382				ひ	ヒト ^{ヒト} ごとでいられますか？ ^{ニューガン} 乳癌	マツミドリ 松翠	朱鳥社		2005	○
383				ふ	フウフ ^{フウフ} 夫婦で「がん」を生きる	スガスマ テイケン 菅沼定憲	日本評論社	夫は中咽頭がん、妻は乳がん+食道がん。共に「がん」を体験した2人が学んだのは「がん」と仲良くしましよう、ということ。がん細胞という不思議な生物の正体を探りながら考え、がんになったらどうすべきかを提言する。* 咽頭がん	2008	○
384				ふ	フウフドウジ ^{フウフドウジ} 夫婦同時ガンになって ^{カンジャ} ガン患者 の最新治療報告	スガスマ テイケン 菅沼定憲	阪急コミュニケーションズ	ガンよ、ありがとう。愛を深めてくれてー。夫婦共に自覚症状がまったくなかったが、夫は中咽頭ガン、妻は乳ガンに。患者の立場からのガン治療最新情報と、同時にガンを宣告された夫婦の愛の記録。* 咽頭がん	2006	○
385				へ	ヘヤ ^{ヘヤ} 部屋とYシャツと「私の ^{ワタシ シンジツ} 真実」	ヒラマツ エリ 平松愛理	集英社be文庫		2004	○
386				べ	ベター・ハーフ	ニシカワ ナガミキ 西川永幹	ごま書房	十代で出会い、二十代で結ばれ、三十年間愛を育んだ夫婦の絆は、病魔によっても引き裂かれることはなかった。白血病のため帰らぬ人となった最愛の妻に捧げる思い。* 白血病	1998	○
387	女性	乳がん		ぽ	ぽっか ^{アナ} り穴のあいた ^{ムネ} 胸で考えた ^{カンガ} わたしの ^{ニュー} 乳がん ^{タイケンキ} 体験記	タカハシ 高橋フミコ	パジリコ株式会社	40代、独身、パフォーマンス・アーティスト。「オンナらしさ」とは無縁、ピンクリボンキャンペーンにはなじめず、乳がんで解放感を味わうわたして、どうよ？ そんな著者による、トランスジェンダー的がん闘病記。	2006	○
388				よ	ヨメイ ^{カゲツ} 余命1ヶ月の花嫁 ^{ハナヨメ}	TBS「イブニング・ファイブ」編	マガジン・ハウス	24歳の女性が懸命に生きた「現実」の記録。乳がんと闘い、最後まで人を愛し、人に愛され、人を支え、人に支えられた人生を生き抜いた長島千恵さんの愛といのちのメッセージを紹介。TBSで放送のドキュメンタリーを書籍化。	2007	○
389					わが ^{チブサ} 乳房 ^{ツマ} を夫に	ホリエ 堀江きょうこ	毎日新聞社		1992	○
390				わ	ワタクシタ ^{タタカ} 私たちは闘う ^{ニュー} 乳がん再発 ^{サイハツ} 体験記 ^{タイケンキ}	ワット隆子 ^{タカコ}	あけぼの会		1998	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
391					わたしが「がん」になったとき	ヒロノミツコ 広野光子	イーストプレス	* 卵巣がん	1995	○
392					わたしが口紅をつけた理由	クチベニ リュウ ジェラリン・ルーカス	文園社	27歳で「しこり」を見つけ、28歳で乳房切除手術を受けた著者が綴る、パワーの溢れる闘病記。試練に立ち向かうとき、強力な敵と闘うときにもユーモアを忘れず、結婚も仕事も手放さずに猪突猛進する姿に勇気をもらえる一冊。	2006	○
393	乳がん			わ	わたしは風にのって ポレポレ乳がん闘病記	カゼ ニュウ タムラ 田村まり子	文理閣	「ポレポレ」とはスワヒリ語で「ゆっくり、のんびり」という意味。どこまで、走れるか、歩けるか…。『京都新聞』連載の闘病記「乳がんつれづれ」「続 乳がんつれづれ」をまとめる。	2006	○
394				あ	赤い蝶々	アカ チョウチョウ ますい 志保	小学館	夜の世界で成功した銀座ママが、子宮を失って初めて知った本当の自分。虐待、籍だけの夫、美容整形、不倫、暴行…。TBS系「金スマ」でも大反響を呼んだ衝撃の半生、そして凄絶な子宮がん闘病日記。	2004	○
395				い	いのち煌いて	キラメ ニシナアキコ 仁科明子	小学館	俳優の松方弘樹夫人が初めて綴った自分史。少女時代、女優デビューと、世間から非難された松方弘樹との恋、壮絶なる子宮がん闘病…。いまだから語れる秘話を初公開します。	1996	○
396					いのちの限りを 二重がんを超えて	カギ ニジユウ ヨ クマガイ サチコ 熊谷幸子	海竜社	* 腎臓がん	1988	○
397	女性			お	女ひとりがんと闘う IV期のがんを6か月でふっ飛ばした仰天パワフル闘病記	オンナ タカカ ヨンキ スガノ アンリ菅野	青春出版社	「えっ、私が、がん!?!」突然の宣告に頼れる家族も彼氏もない。襲いかかる苦痛、果てしない不安。すべてを自分に受け入れて、がんと闘い抜き、克服した、アンリ菅野の闘病と自分探しの物語。	1999	○
398		子宮がん		が	がんよ、ありがとうがらし 二度のがん体験から見えてきたもの	ニド オガタ マサコ 緒方真子	文化出版局	がんは、生を考えるチャンスのひとつ。そこから見えてきたものは、いとおいしい人間模様というたくさんの宝物。一度がんになった人、がんにかかることを恐れている人へ贈る、ユーモアあふれるがん闘病記。* 肝臓がん	2000	○
399				し	子宮ガン…生きるための私の選択	シキユウ イ ワタクシ センタク アキタ マキ 芥真木	小学館	94年3月、東京医科歯科大学附属病院で2期まで進んだ子宮頸ガンを突然告知される。両親にそれを告げる瞬間、抗ガン剤治療とその副作用、7時間にも及ぶ大手術、術後のさまざまな感染症の苦しみ。闘病生活の全てが収められた。	1995	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
400					シキユウガン 子宮癌のおかげです オンナベンゴシ 女弁護士の ゼンテキ ニチカン キロク 全摘57日間の記録	アツミ マサコ 渥美雅子	工作舎	即断即決・収支決算付きの「明るい闘病生活マニュアル」。突然のガン宣告から子宮全摘出手術、退院までの闘病生活を、過激に、そしてユーモラス語る。渥美雅子節が炸裂!	2003	○
401				じ	シュウ 16週あなたといた幸せな時間	ムカイアキ 向井亜紀	扶桑社	「わずか4カ月間…。私はたしかに、お母さんだった。」妊娠と同時に告げられた子宮ガン。全摘出手術で我が子も失った向井が、夫・高田延彦とともに闘った日々を綴る命の記。	2001	○
402				は	ナオ アカボシ シ はいッ!ガンを治した赤星です!! 子 キュウ ツウカイ ニッキ 宮ガンからの痛快サバイバル日記	アカボシ 赤星たみこ	扶桑社文庫		2000	○
403					ハハ フ ジョウ 母への詫び状 (ノン・ポシェット) すべてをし尽くした。でも……	キリュウ コ 桐生ゆう子	祥伝社		1996	○
404		子宮がん		ま	マッキ センコク ウ ジョセイ 末期がん宣告を受けとめて 女性 ゲカイ イコ 外科医「いっしん」の遺したメッセ ジ	イシモト サチコ 石本左智子	EPIC	「ちょっとアンラッキーだったけど、ハッピーだったよ」という言葉を遺して、彼女はホスピスから旅立った…。「いっしん」という愛称で、友人たちにこよなく愛された一人の女性外科医の、がん病床からの熱く優しいメッセージ。	2002	○
405	女性			わ	ワタクシ エンメイ テリョウ 私、延命治療はしません ガンで ヨメイコクチ イモウト トモコ センタク 余命告知された妹・智子の選択	トダ カズコ 戸田和子	リヨン社	余命告知をされ、抗癌剤治療を拒否し、自分の納得のいく生き方を選択した妹。その闘病生活を支えた姉が「生きる」ことの意味を綴る。「あと3カ月」を自分らしさを模索して貫いた39歳の女性の生き方。	2003	○
406				え	エガオ ステキ 笑顔の素敵なあなたに	ウエハラ カンナ 上原寛奈	文芸社		2003	○
407				か	カンゴフ 看護婦ががんになって	オガサワラ ノブユキ 小笠原信之 ツチハン ノリコ 土橋律子	日本評論社	度重なるがん体験を通して一人の若い看護婦が独自の看護観や人生観に到達するまでのプロセスを、小笠原が取材をもとに丹念に綴る。みずからの経験を通して体得した看護論を土橋自身が綴った文章も収録する。	2000	○
408		子宮体がん		く	クワ 久和ひとみ 絶筆 子宮がん闘病 ニチ ニッキ 116日の日記	クワ 久和ひとみ	小学館	突然の子宮がん宣告、司会をつとめていたニュース番組の降板、想像を絶する辛い闘病の日々…。最後まで生きる希望を捨てずに、死の直前までの自らを綴った116日間の凄絶な「命の記録」。日記をもとにまとめたドキュメント。	2001	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
409				し	シキユウ ヒト シキユウ フタ シ 子宮は一つ、子宮がんは二つ 子 キユウタイ ショジュツ コウ サイテリョウ オ 宮体がん手術と抗がん剤治療を終 えて	サカイノリコ 堺典子	文芸社	年に一度の人間ドックを欠かさず、子宮ガン検診でも「異常なし」で安心していたのに、なぜ? 二種の子宮ガンのうち、人間ドックなどでは発見されない体ガンで手術を受けた著者が贈る体験記。	2002	○
410					シキユウ ウ 子宮を産んだら	シイナミサト 椎名美里	東京経済		1998	○
411		子宮がん		は	ハナミズキ クズ ハナ ガン イ ツマ 花水木と葛の花 癌で逝った妻と のニヒャクニチ の二百日	ミズカミアキオ 水上明雄	東洋出版	日ごと増えるモルヒネは痛みこそ和らげるが妻が妻でなくなっていく。私は思わず凍てつく。妻はどこに行ってしまったかと。闘病記録を著者に委ね、200日間を生き抜いた妻は、どんなことを伝えようと思ったのか。	2006	○
412		子宮肉腫	○	つ	ツマ マエ ガン コクチ 妻よ、お前の癌は告知できない	ウエダテツ 上田哲	講談社		1998	○
413	女性	卵巣がん		い	フタタ シュワ ツウヤクシャ いのち再び 手話通訳者ががんにな って	オオニシヤスコ 大西康子	クリエイツかも がわ	サポートされる身になって、初めてわかることがある。手話通訳活動と高齢世帯援助員(SCS)として活躍していた著者ががんになったとき見えてきた、本当の必要な支援のあり方を綴る。	2006	○
414				う	ウミ カエ ジョウウカハラナツコ 海に還る 女優・賀原夏子 ガン告 知から8か月……残された時間を タタカ ヌ オンナ アイ シ 闘い抜いた女の愛と死	ツカハラスミエ 塚原純江	主婦と生活社		1993	○
415				お	オカヤマダイガクビョウインハツ トウビョウレツシャ 岡山大学病院発、ガン闘病列車	ハマモト 浜本なおこ	文芸社		2008	○
416					ガンからのストレス脱却へ 患者とし ての医療への要望	マエダ カズ 前田 和	近代文芸社	病んでも輝きを生み出す「活性化」とは。更に、患者としての医療への要望とは。癌とのつきあい生き生きと。* 乳がん	1995	○
417					が	フジモト カズヨ 藤本和代 ハヤシマキコ 林槇子	山手書房新社		1993	○
						ウ カツ ツウ テガミ ガンに打ち克つ14通の手紙				

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
418					ガンになっても私、セクシー？ ^{ワタクシ ラン} 卵巣ガン患者発“ふまじめ”のすすめ	タケウチ ヒサヨ 竹内尚代	パンドラ	ガンになったからといって、仕事も降りない、女も降りない。酒と友だちづき合いはますます盛ん。ふまじめな患者に徹する著者はみずからの性と生にどこまでも真面目な患者である。ガンとの偏見のないつきあい方を語る。	2000	○
419				き	きっと良くなる必ず良くなる ^{ヨ カナラ ヨ} 多重 ^{ダジュウ} がんとの闘いの記録 ^{タタカ キロク}	ヒロノミツコ 広野光子	PHP研究所	乳がん・卵巣がんの二つを病んだ著者の、5年を生き抜いた記録。重篤ながんを病んでも現代の医療と人の持つ自然治癒力を信じて闘病すれば、予後明るく楽しく生きられるという励ましの書。*乳がん	1998	○
420	女性	卵巣がん		さ	小夜子へ ^{サヨコ ツマ} 妻が遺した花がたみ ^{ハナ}	カワグチ ミキオ 川口幹夫	集英社	「パパ、パパより先に逝ってしまうけど、ごめんね」君がいるべきだった年月まであわせて私は生きなければならない。いまだに墓すら建てていない夫が、自らの涙で刻んだ亡き妻への墓碑銘。	1999	○
421				し	質的転換 ^{シツテキ テンカン}	ダイキ 大樹	碧天舎		2004	○
422				じ	十四年十回のがん手術を生き抜いて ^{ジュウヨネン ジツカイ シュジュツ イ ヌ}	ウエマツ フミエ 植松文江	光文社	子宮の全摘手術を受けて以後、14年にわたる闘病を強いられてきた著者。壮絶な手術、副作用に苦しみながらも、家族の愛に支えられて、常に前向きで生きてきた一人の女性の手記。	2004	○
423				せ	惜春 ^{セキシユン}	ウエダ コウジ 上田孝治	東京図書出版会	たった1%でも存命の可能性のあるのなら、99%を捨てて1%に全てを託す。癌を知らされず、妻が戦った2000日を描いた小説。	2002	○
424				と	とうさん魂あずかって	芹澤義夫編	ジャパン通信情報センター		2007	○
425				ひ	百万回の永訣 ^{ヒャクマンカイ エイケツ} がん再発日記 ^{サイハツ ニツキ}	ヤナギハラ カズコ 柳原和子	中央公論新社	「余命半年」の告知から2年、「死」をみつめて積み重ねた「生」の記録。そして、ふたたび魂の奇蹟は起こった…。生きることの健気さが涙をさそう手記。『中央公論』連載の「残照 がん再発日記」を改題のうえ、加筆・修正。	2005	○
426				む	娘とわたし ^{ムスメ}	ツムラ ノブコ 津村昶子	静岡新聞社		1997	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少 がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
427				わ	わたしが「がん」になったとき	ヒロノミツコ 広野光子	イーストプレス	* 乳がん	1995	○
428		絨毛性疾患 (絨毛がん)		お	マリエ 真利栄ちゃんママがんばってるよ	オクサコ ヤスコ 奥迫康子	家の光協会	胎盤のがん「絨毛がん」から、奇跡的に生還した母の9か月におよぶ闘病の日々…。生後39日で逝った娘へのレクイエムは、がんとの壮絶な闘いの記録でもあった。「生」と「死」を真正面から見つめる姿が胸を打つ。	1996	○
429		絨毛性疾患 (絨毛がん)		か	カミ ウマ シキョウ タタカ 神さま！産ませて 子宮ガンと闘 フタゴ シュツサン ハハ キロク い双子出産の母の記録	ナガトモ アケミ 長友明美	講談社		1985	○
430		絨毛性疾患 (絨毛膜がん)		が	がん ^チ に散った！フォトジャーナリス トの ^{ユメ} 夢	マンダイラ カズオ ケイ 松平和夫・慶 子	文芸社		2004	○
431	女性	悪性絨毛上皮腫		き	キセキ ツマ オコ ナカ イノチ 奇跡よ妻に起これ 7日の命とい われたガンが治った！	ナガミネ リョウサイ 長峯良斉	主婦と生活社		1987	○
432		外陰がん	○	ひ	ひかりのなかへ 700日のDIARY	タジマ ユウコ 但馬裕子	アルタ出版	大学院への復帰を信じ、自らの悪性腫瘍と正面から対峙し、懸命に闘って短く壮絶な生を生きた一人の若い女性の700日の記録。追悼のメッセージも収録する。	2003	○
433			○	か	カタメ ウシナ ミ 片目を失って見えてきたもの	ピーコ	サンマーク出版	なんとも思っていなかったまわりのものが、いま、とてもいとおしい…。ガンで左目を摘出した著者が、あらためてかみしめた友情のありがたさ、過ぎていった日々とこれからの毎日の大切さを綴る。	1999	○
434		悪性黒色腫	○	も	もういちど二人で走りたい	アサイ コ 浅井えり子	徳間書店	今年3月、監督であり夫でもあった佐々木功をガンで亡くしたマラソンランナーの著者が自ら綴った哀切の手記。数か月の命と知っての入籍から194日間の闘病生活まで、走り続けた2人の全ドラマ。	1995	○
435	皮膚		○	よ	ヨア 夜明けのE・Tごっこ がん死こう ちゃんの ^{バファイ} 場合	サトウケイコ 佐藤桂子	東京経済		1999	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

番号	部位	病名	希少 がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
436			○		よってたかって目の勉強 ^{メ ベンキョウ}	エイ ロクスケ 永六輔・ピー コ	扶桑社		1990	○
437		悪性黒色腫 (鼻腔悪性 黒色腫)	○	き	キセキ 奇跡のトライ	ヤマシタ タダオ 山下忠男	池田出版		1999	○
438	骨・筋肉	悪性骨腫瘍 (骨肉腫)	○	あ	アイ シ 愛と死をみつめて ある純愛の記 ロク 録	オオシマ 大島みち子 コウノ マコト 河野實	大和書房新版		2006	○
439			○	あ	アスカ 飛鳥へそしてまだ見ぬ子へ 若き イシ シ チョクゼン ツズ アイ ショ 医師が死の直前まで綴った愛の手 キ 記	イムラカズキヨ 井村和清	祥伝社・新装 版	死にたくない。生まれてくる子の顔を見たい…。不治の病に冒された青年医師が、最期まで生きる勇気と優しさを失わず、わが子と妻、両親たちに向けて綴った遺稿集。夫人による新原稿を加えた1980年刊の新装版。	2005	○
440		悪性骨腫瘍 (骨肉腫)	○	い	イノチ モ 生命燃えつきるとも ガンと闘っ タネ イモウト ハチ ゲツ た姉と妹の八か月	キノレイコ 紀礼子	時事通信社		1987	○
441			○	く	クシマズファイト ツマ コ ササ 妻と子に捧げる、 チチ タカ キロク 父としての闘いの記録	クシマ マサツグ 串間政次	体育とスポー ツ出版社	「生きるため」に左脚を切断した格闘家・串間政次が、今、家族への思いを胸に自身の存在の証としてリングに上がる! 真の強者たちをも驚嘆、そして感動させる闘いがそこにはあった…。	2004	○
442			○	わ	ワカ 若きいのちの日記 アイ シ キロク 愛と死の記録	オオシマ 大島みち子	大和書房新版	病院の外に、健康な日を3日ください…。死の間際まで書き記した心の軌跡! 2004年12月刊「愛と死をみつめて」のミコが恋人には言えなかった心の内を切々と綴る! 新版。	2005	○
443	骨・筋肉	悪性骨腫瘍 (ユーイング 肉腫)	○	か	カオ ナク 顔を失くして『私』を見つけた ワタクシ ミ	ルーシー・グ レアリー	徳間書店	本当の顔とは何だろう? 美醜は一体、誰が決めるのだろうか? どうすれば「本当の自分」に辿り着けるのだろうか? 病気で顔を損傷した少女が、醜い顔が持つ意味を問い続け、自分自身と失った顔を取り戻すまでの感動の軌跡。	1998	○
444		悪性骨腫瘍 (血管肉腫)	○	い	イ 生きて迷わず死して悔やまず	ヤダ ソウイチ 矢田壮一	講談社		1992	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少 がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
445		横紋筋肉腫		あ	アンタ イ ジュウハツサイ 明日もまた生きていこう 十八歳で がん宣告を受けた私	ヨコヤマ ユミカ 横山友美佳	マガジンハウ ス	全日本合宿参加の連絡を受けたまさにその日、がんと闘いを始めた高校生・横山友美佳。発病するまでの18年間と、闘病しつつ大学受験やアルバイトなどの新たな経験を重ね、夢を追い求め続けてきた3年間の日々を綴る。	2008	○
446					摩優の樹—いつか天の川で—	横井千香子	風葉社	* 嗅神経芽細胞腫	2003	○
447		軟部肉腫	○	は	ハラ タコ ス 腹に蛸が棲みついた	フクヨ ユウゾウ 福与裕造	新風舎文庫		2007	○
448		軟部肉腫 (骨軟部腫瘍)	○	ち	チ オチ ヒトツブ ムギ ワカ ダイガク 地に落ちよ、一粒の麦 若き大学 イン センコク トウビョウキ 医師のガン闘病記	ノグチ ユキヒロ 野口幸洋	産経新聞社	医師として、父として、夫として私はガンと闘いつづける。骨軟部の肉腫から生還した若き総合診療医の愛と涙の闘病700日の記録。ガン患者の立場から医療を省みた医師の胸中に去来するものは?	2001	○
449	骨・筋肉	軟部肉腫 (繊維肉腫)	○	し	シ 死までの着陸航路	アノウ カツヒコ 麻生勝彦	日本図書刊行 会		1997	○
450		軟部肉腫 (平滑筋肉腫)	○	い	いのちのダンス マイヒメ センタク 舞姫の選択	ヨシノ 吉野ゆりえ	河出書房新社	元ミス日本で世界的トップダンサーの彼女を襲った「忘れられたガン」。そのとき彼女は、命をかけて「ブラインドダンス」を立ち上げた。平滑筋肉腫を抱えながらも、視覚障害者にダンスを教えている著者が、その生き様を綴る。	2008	○
451			○	み	ミズウミ デンセツ ガカ ミツハシ センゴ 湖の伝説 画家三橋節子の愛と死	ウメハラ タケン 梅原猛	新潮社		1980	○
452		結合組織腫瘍	○	わ	わたしの天国でまた会いましょうね	クリステル ツァヘルト イザベル ツァヘルト	集英社	どこまでも強く明るく生き抜いた青春。16歳の少女が悪性腫瘍と闘った1年間と尊厳死を選ぶまでの日々。ひとりの自立した娘として、家族に死に対する心がまえをさせた少女と母の1年間を日記と手紙で綴る。	1994	○
453		骨巨細胞腫	○	う	ウツ アル 美しく歩きたい 新たなる義足とと もに	コボリ ミチコ 小堀美智子	自費出版	不可能と思えることへの挑戦。失った左足を未来への希望に変えて…。左足切断という運命にも持ち前の明るさで立ち向かい、義足はハンディではないという生き様と人々へのメッセージを綴る。	2005	○
454	大腿腫瘍	○	か	カタアシソウシツ キ 片足喪失の記 たとえ“ガン”で あっても	タカツキ ヒロシ 高槻博	柘植書房	働きざかりの男を突然ガンが襲った。肺への転移をおそれて、左足離断。死のおそれ、大手術への逡巡と決断、気の遠くなるようなリハビリ訓練。発症から手術、社会復帰までの心の動きを綴った感動の記録。	1995	○	

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
455	血液・リンパ(白血病)	白血病		あ	アオ ソラ ム 青い空の向こうに	オオタミスズ 太田美鈴	新風舎		2007	○
456					ヒ カエ コツズイ あたりまえの日に帰りたい 骨髄	コバヤシ 茂コ 小林茂登子	時事通信社	ある日、突然宣告された慢性骨髄性白血病。突然直面した死の恐怖に立ち向かい、驚嘆すべき沈着さと深い信仰に根ざした勇気をもって、ついに打ち克ち、見事に生還を果たした主婦の記録。	2000	○
457					セイ ハッケツビョウ セイカン 性白血病からの生還	イケダ シンイチ 池田真一	リーブル出版	闘いの日は続くけど、僕は生き続ける。最後の最後まで生き続ける。白血病、肺線維症と難病に襲われながらも懸命に闘い続ける著者が綴るケータイ闘病記。	2008	○
458					イ シズ ムスコ タタカ 生きてほしい、静かなる息子の闘	アゲイン カズコ 上石和子	ディーディーエヌ	突然襲った不治の病。病床にあっても、笑顔とユーモアを絶やさなかった学。傍らで見守り、励ましつづけた母親から息子への鎮魂歌。詳細な病状日記、病床から家族友人と交換したメールを収録する。	2004	○
459					イ 生きてるってシアワセ	オオタニ タカコ 大谷貴子	スターツ出版社	慢性骨髄性白血病の宣告、私には生きるチャンスがないと泣きながら「助けて!」と叫びつづけた日々。あれから10年、骨髄移植で難病を克服した著者の、感動の手記。女優・東ちづるとの骨髄バンクについての対談も収録。	1998	○
460	○	イッスン サキ ヒカリ 一寸先は光 それでも生きていたい	ナカタ カンジ 中田完二	広済堂出版	遠い未来のことを考えると、そこには自分の力では変えられないものもある。しかし、今この時をどう生きるかによって、次の瞬間を変えることはできる。白血病、脳腫瘍、そして全盲との闘いで見た著者の命の輝き。* 脳腫瘍	2001	○			
461	血液・リンパ(白血病)	白血病		イ いのち煌めいて 由希子白血病と闘った青春	クノ テツヒロ 久野哲弘	東京新聞出版局	21歳。壮絶な生命の記録。自ら慢性骨髄性白血病と闘いながら、骨髄バンクキャンペーンガールとして活躍した中堀由希子さんの切なく激しく生きた3年間をつづる。彼女の遺志は生きている。	1994	○	
462				イノチ マゴ コツズイイシヨク 命よ孫よ 骨髄移植をのりこえた	オオイズミイッロウ 大泉逸郎	光文社	急性骨髄性白血病で倒れた長男は、奇跡的に父子間で型が一致し、骨髄移植が成功した。しかし、そのこと以上に家族の心を支えたのは、孫・慎太郎の存在だった…。闘病によって深まった家族の絆と孫への想いを綴る。	2000	○	
463				カゾク キズナ ゼンキロク 家族の絆—その全記録	ハニオカ ケンイチ 埴岡健一	中央公論社	情報が病気と闘う武器になる。みずからの介護体験、日米諸事情の比較を通じ、パソコンを駆使した新・闘病法を提唱。役に立つ情報を見つけるためのインターネット「リンク集」収録。	1998	○	

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
464				え	エイエン アイ チカ 永遠の愛を誓って	アズミ マサコ 安積政子 フジヤス ヒデキ 藤保秀樹	宝島文庫		1998	○
465				お	オレ 俺、マジダメかもしれない… 「急 セイ 性リンパ性白血病」で逝った最愛 ムスコ の息子へ	タカノ ユミコ 高野由美子	太陽出版	敏行はひとりぼっちじゃない。みんなの心の中に生き続けるよ。大好きなバスケットボール、愛車のモンキー、そして愛する家族と友達を残して、18歳で旅立った敏行。精いっぱい生きた証を、母が綴った愛の記録。	2008	○
466				か	カア コモリウタ ズンゴエガマ 母さん子守歌うたって 寸越窯・い キロク のちの記録	ナスダミル 那須田稔 キシカワ エツコ 岸川悦子	ひくまの出版	滋賀県信楽に生き、ひたすら陶芸の道を歩み続ける神山清子と、31歳の若さで白血病に倒れた同じ陶芸の道を志した息子賢一の、母と子の命の記録を綴った涙と愛の物語。	2002	○
467					カゼ デンゴン 風の伝言	クサカワ ヤエコ 草川八重子	かもがわ出版		1990	○
468					カンク 家族のたからもの 夫・カンニング ナカシマ マナミ 中島が遺した最期の日記	ナカシマ マナミ 中島真奈美	日本テレビ	白血病の闘病中に肺炎を併発し、35歳の若さでこの世を去った、お笑い芸人・カンニングの中島忠幸。彼の知られざる闘病生活、家族との愛、相方竹山との友情などを、妻の中島真奈美が綴る。	2007	○
469				か	カミサマ ナニ 神様、何するの… 白血病と闘つ シュキ たアイドルの手記	ヨシレイ 吉井怜	幻冬舎	人気絶頂の吉井怜を襲った突然の不幸-白血病。抜け落ちる髪の毛、黒く腫れあがる顔、絶え間なく続く吐き気、ライバルの活躍、そして不妊…。涙が止まらない、壮絶なる闘病記。	2002	○
470					カ 枯れない花になる日まで	タカハギ ヒロユキ 高萩博幸	碧天舎		2006	○
471				け	ケツエキガタ カ 血液型が変わっちゃった！ 白血 ビョウ カハシマ マヒ コソズイシヨク シ 病、下半身麻痺、骨髄移植…死の フチ セイカン 淵からの生還	イシハラ ヤスユキ 石原靖之	マキノ出版	人は死と対峙した時に何を思うのか。折れた心はどう立て直せばいいのか。急性骨髄性白血病とはどんな病気なのか。背骨を削って腫瘍を取る手術、下半身麻痺、骨髄移植と、5年に及ぶ闘病生活の心情の変化を赤裸々に書き綴る。	2004	○
472	血液・リンパ(白血病)	白血病		し	シ ウミ オヨ 死の海を泳いでースーザン・ソクタ サイゴ ヒビ グ最期の日々	デイヴィッド・リーフ	岩波書店	亡くなるまでの9カ月間、傑出した批評家・作家であったスーザン・ソクタは、文字通り「死の海」を泳ぎ続けた。その短い期間、母に寄り添い、ともに泳ぎ続けた一人息子が記した渾身のルポルタージュ。	2009	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
473				せ	セイジン サイボウ ハッケツビョウ トウビョウキ ノ 成人T細胞白血病ATL闘病記 乗 り越えることが運命ならば	ヤカタ テアキ 尾形千秋	南方新社	発症2年でほとんどが死亡するといわれる成人T細胞白血病(ATL)。しかし発症から6年がたちながら元気に生活している人がいた。父親の闘病の様子を綴ったブログと近況をまとめる。	2008	○
474				て	テンゴク マホ ハッケツビョウ タタカ ムスメ 天国の真帆へ 白血病と闘った娘 への手紙	ヤマグチ エツコ 山口悦子	あけび書房	3年11カ月の闘病生活にもかかわらず、天国に旅立ってしまった娘・真帆。書き残した多くの闘病日記や手紙とともに、残していつてくれたメッセージを何かの形にと、26年半の人生をありのままにつづった記録。	2007	○
475				に	サイ ワカレ ナカホリ ユキコ 21歳の別離 中堀由希子	エンドウ マコト 遠藤允	学研	15秒に21歳の生涯を凝縮したようなスポットCMによって、日本骨髄バンクのドナー登録者に寄与した1人の若き患者。死に直面しながら、骨髄バンク運動を展開し、天性の明るさで生涯を貫いた中堀由希子の青春譜。	1994	○
476					サイ ワカレ ハッケツビョウ 21歳の別離 白血病とのたたかい に青春をかけて	エンドウ マコト 遠藤允	学研M文庫		2001	○
477				ぬ	ぬくもり	アンドウショウゴ・ショウ 安藤庄吾・聖 子	清風堂書店		2002	○
478					ハッケツビョウ セイカン 白血病からの生還	ムラヤマ マサノリ 村山正則	いのちのことば社		2001	○
479				は	ハッケツビョウ セイカン キリ ナカ セイメイ 白血病からの生還 霧の中の生命	オオタニタカコ 大谷貴子	リヨン社	20代の青春期を、白血病との闘いと骨髄バンクの設立に注いだ著者の、ひたむきな生き方。骨髄提供という「善意」が確実に白血病患者のいのちの救済につながる。1991年刊「霧の中の生命」の改題、増補版。	2005	○
480					ハッケツビョウ テリョウ ニッキ カゾク 白血病「治療」日記 家族でのりこ えた500日	クサマ シュンスケ 草間俊介	東京新聞出版局	45歳の私は臍帯血移植を受け、「完治率30%」から職場復帰した。急性白血病に冒された記者が綴る記録。『中日新聞』『東京新聞』連載「白血病入院日記」を単行本化。	2006	○
481	血液・リン				ハッケツビョウ 白血病ママ	ハヤシ 林まどか	文芸社		2008	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
482	パ(白血病)	白血病		ひ	180ccのいのち	オオタケ 大竹あや	日本テレビ放送網	告知、ドナーを待ちわびる日々、骨髄移植、無菌室、合併症、院内感染…。白血病と出会い、生と死をともにした人々との5年にわたる哀しくもおかしい日々。数々の賞に輝いたテレビドキュメンタリーの感動を再び。	1997	○
483				び	ビョウイン デ 病院を出よう！	タイラミキ 平美樹	星湖舎		2004	○
484				ふ	フタリ テンシ 「二人の天使」がいのちをくれた ハッケツビョウ セイカン サイタイケツ イシヨクトウ 白血病からの生還、臍帯血移植闘 ギョウテン 病記	ヨシダトシヤ 吉田寿哉	小学館	化学療法を続けるか、骨髄移植をするか。「いのちの選択」に悩むなかで知った、第3の治療法「臍帯血移植」。そして僕は、名も知らぬ赤ちゃんからいのちを分けてもらった！白血病と闘った著者の472日間のドキュメント。	2005	○
485				べ	ベター・ハーフ	ニシカワ ナガミキ 西川永幹	ごま書房	十代で出会い、二十代で結ばれ、三十年間愛を育んだ夫婦の絆は、病魔によっても引き裂かれることはなかった。白血病のため帰らぬ人となった最愛の妻に捧げる思い。*乳がん	1998	○
486				む	ムキンビョウシツ ヒト 無菌病室の人びと	アカツカ ノリコ 赤塚祝子	集英社		1993	○
487			血液・リン	白血病		む	ムスメ ミキ ゼツタイ シ 娘・美樹を絶対に死なせない！	タイラノブコ 平宣子	パールバック	
488		も			イ もっと生きたい 白血病と肝臓ガン ハッケツビョウ カンゾウ イ オット ツマ シュキ で逝った夫とその妻の手記	ヨシノケイコ 吉野啓子	南雲堂	二人のために生きてという妻の手紙で堰が切れ 闇夜の中でひとり涙す…。万葉をこよなく愛した元・NHKアナウンサー吉野正美の凄惨な手記と、励まし続けた妻の献身的看護の記録。*肝臓がん	1999	○
489		ゆ			ユカ エガオ 由香ちゃん笑顔ありがとう	サイトウ ユカ 斉藤由香	リトル・ガリヴァー社		2002	○
490					ユメ 夢をあきらめないで	トクダヒデキ 徳田秀樹	北國新聞社		1993	○
491		わ			ワタクシ ムスメ ハッケツビョウ ムスメ シ 私の娘は70cm 白血病の娘が死 フチ タイケン フシギ キロク ジ の淵で体験した不思議な記録3時 カン ブン 間36分	ギョウテン ミヤコ 行天都 ギョウテン アサミ 行天朝美	河出書房新社	18歳の春に白血病になり死の淵を行ったり来たりしながら体験した真実。無菌室のカーテンのこちら側から見た母の記録と、発病から3年間の娘の詩でつづる感動の一冊。NHK「青春メッセージ2000」二十歳賞受賞作品収録。	2001	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
492	パ(白血病)	骨髓異形成症候群		い	いまを ^{カケ} 翔けぬけろ	ヨシザワ ミドリ 吉沢翠	新風舎		2006	○
493				に	2度目の ^{ドメ タンジョウビ} 誕生日	サカイ チカコ 坂井千賀子	文芸社		2009	○
494				は	反戦 ^{ハンセン} ストリッパー ^{ハツケンビョウ} 白血病 ^シ に死 ^{サワ} す 沢 口友美 ^{グチトモミデン} 伝	マサカリ ホノオ 正狩炎	グラフ社	時代を踊り、時代に倒れたひとりの女がいた。職業、自衛官を経て踊り子。1979年の自衛官時代から、踊り子の時代、風組日本党の結成、そしてイラクでの反戦アピールまで。被爆2世として白血病に倒れた波乱の生涯を描く。	2006	○
495				み	みんながいるから ^{イマ} 今があるから	ナカミノ ユウコ 中溝裕子	ホーム社	プロゴルファーとなって3年目、骨髓異形成症候群という、骨髓移植以外に治療方法がない難病の宣告をされた著者。多くの人々に励まされた日々を振り返り、骨髓移植や拒絶反応との闘いの中で知った「生きている喜び」を伝える。	2001	○
496				り	リカバリー！ ^{ヨツスイイショク ノ} 骨髓移植 ^ユ を乗り越えて	ナカミノ ユウコ 中溝裕子	新潮社	夢のプロゴルファーになった著者を襲った「骨髓異形成症候群」。骨髓移植を受け新たな命を得るが、後遺症で更に苦しい入院生活に。絶望に沈む著者を支えたものは…。読者に元気を贈る熱血闘病記。	2005	○
497	血液・リンパ(多発性骨髄腫)	多発性骨髄腫		い	命 ^{イノチ} いっぱい ^イ 生きた ^{ヒビ} 日々	コオノ シュウサク 鴻農周策	NHK出版	闘病日誌と書くのはよそう、闘病、克病を含む、今の、明日の、人生の日々の日記を考えよう…。43歳で末期ガンの宣告を受けたディレクターが、死の恐怖と激痛の中で、仕事に命を燃やしながら克明に書き続けた8年間の日記。	1994	○
498				お	老 ^オ いが老 ^オ いを ^ミ 看るとき ^{ケツエキ} 血液ガン の妻 ^{ツマ} を ^{カイゴ} 介護して	アサズマ マサミ 浅妻正美	日本評論社	老いた夫が、妻が、パートナーを介護するケースが今後ますます増えるだろう。「二人」が「一人」になる時、どう生きるか。不治の病と宣告された末期ガンの妻を、自宅で介護しようと決意した男の奮闘記。	1997	○
499				と	闘 ^{トウガンキ} 癌 ^シ 記「死 ^{センゴク} の宣告」と私 ^{ワタシ} の選 ^{センタク} 択	マイケル・ギ アリン・トツ シュ	原書房	診断の結果は癌。化学療法を開始しなければあと数カ月の命と宣告された著者は、化学療法を拒否し、自分自身が納得できる前向きな治療生活を始め、死を克服した。闘病生活から医学的な疑問、問題点までを綴った、命輝ける手記。	2003	○
500						届かぬ恋文	田中千勇子	もぐら書房		2007

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少 がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
501				ほ	ホネ キ 骨が消えた！ 多発性骨髄腫で イ イシ トウビョウキ 逝った医師の闘病記	アソウ コウジ 阿相幸治 アソウ ノブコ 阿相信子	メトロポリタン 出版	自分で自分の病気を診断、専門家に最終診断を依頼、そして結果は妻以外の身内に秘密にしようと決心する…。消えた骨に我が目を疑った日から4年8か月。自らのガンを冷徹に見据えつづけた医師の記。	1994	○
502			○		アイ シ 愛と死のはざままで ガンと闘う夫と ツマ アイ クジュウ オウフク ショカン 妻の愛と苦渋の往復書簡	ハマハタ オサム 浜畑紀 ハマハタ ミエコ 浜畑美恵子	恒友出版	最期までガンと知らずに夫は逝った。絶え間なく襲いくる、病の苦しみと闘う夫。一人残され、家事と子育てに忙殺される妻。将来への不安、医師への不信、少しずつ広がる心の隙。心と心を交わし合い真実の愛を知った夫婦の物語。	1994	○
503	血液・リンパ(悪性リンパ腫)	悪性リンパ腫	○	あ	アクセイ シュ コフ ナオクン 悪性リンパ腫なんて怖くない 直君 アクセイ シュ カクトウキ の悪性リンパ腫格闘記	ミネ ナオノリ 峯直法	文芸社	「血液のがんです」「なぜ私が!?!」たくさんの善意と支援に支えられて骨髄移植という想像を絶する苦難を乗り越え、奇跡の“完全寛解”に至るまでの1年間。リンパ腫との格闘経過や治療の内容、エピソードなどを綴る。	2007	○
504			○		アメリカ的ガン闘病記 すべては告 テ ハジ 知から始まった	リー・あおい	東京書籍	日本の医療に絶望し、アメリカでのガン治療を決意した夫。アメリカの医者は患者にどのような話し方をするのか、アメリカの人たちは遺族にどう接するのか。見知らぬ地で夫の闘病を支え続けた勇氣ある妻の記録。	1999	○
505			○	い	インヤ シ ム ア 医者が、がんで死と向かい合うとき	フセトクマ 布施徳馬	講談社	「医師と医学と医療を信じ、賭けた。しかし…」がんの再発で死に直面した外科医の告白。がん治療の最前線の現実と、生への執着、死の恐怖との闘いを赤裸々に書き下ろす。家族への手紙も収めている。	1994	○
506			○	が	ガンとして生きる 明日死んでもよ ヒヤク イ し百まで生きてもよし	セキネトクオ 関根徳男	慶應義塾大学 出版会	癌になり、その後、生かされた。その経験が「明日死んでもよし、百まで生きてもよし」という心境を生んだ…。2度の癌の手術を経験した著者が、入院日記のほか、8年間の闘病で辿りついたことをまとめる。	2005	○
507			○	コイ サイボウ 恋する細胞たち ガンの日々	ウツミ ハルヨ 内海春代	幻冬舎ルネッ サンス		2006	○	
508			○	スナオ 素直になれたら	ニシモト フジコ 西本富士子	新風舎		2005	○	
509			○	セキベツ トモンビ 惜別の灯 がんと闘いぬいたある ケイサツカン キロク 警察官の記録	アンドウ ヨシノリ 安藤義教	MBC21	悪性リンパ腫発病から10年の間に著者の書きつづった日記、メモ、俳句、詩などをまとめたもの。闘病生活の中の心の叫びや家族への愛、抗がん剤や放射線治療といった現代医学への疑問が率直に語られている。	1996	○	

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
510	血液・リンパ(悪性リンパ腫)	悪性リンパ腫	○	と	トキユ 時の揺りかご	ニシカワ ユキコ 西川由起子	新風舎	明日のことは明日に任せて、揺られてみよう 時折、かごの縁に手をかけて世界を眺めてみよう 揺りかごから落ちたりもしてみよう 悪性リンパ腫と診断された著者が、その事実には屈することなく綴った手記。	1997	○
511			○	は	ハシ 走りつづけて 父・山谷親平 五千 ロッキンイッカイ アサ 六百一回の朝	ヤマタニ ヨ 山谷えり子	ニッポン放送出版		1985	○
512			○	ひ	ヒロサワ ナオミ 白がのぼり白がしずむ	ヒロサワ ナオミ 広沢直美	自分流文庫		1997	○
513			○	へ	サイ アカ へこんでも 25歳 ナツコの 明るいガ ン闘病記	タワダ ナツコ 多和田奈津子	新潮社	おしゃれなOLだったナツコは25歳で再びガン患者になったけど、苦しい治療をクリアして大切なものを勝ち取った。友情、家族愛、そして生きる喜び!! 笑って泣いて感動する「明るいガン闘病記」。	2002	○
514			○	ゆ	ユウヤ ム 夕焼けの向こう側	ノガワ 野川はるひ	文芸社		2006	○
515			○	わ	ワ ユビョウ ヒビ 吾が遊病の日々	イトウ ジョウ 伊東丞	東京図書出版会		1999	○
516		ホジキン病	○	び	ビョウシツ 病室のひとりごと	ヨコイ マサヒロ・ト 横井正裕・とし子	文芸社		2001	○
517	小児がん	小児がん		あ	アイ ショウニ タカ 愛してるよカズー 小児ガンと闘った ハハオヤ ムスコ アイ キロク 母親と息子の愛の記録	ミツケリョウ 光武綾	長崎文献社		2008	○
518				あ	アオ ヨア ハハ ショウニ 碧い夜明けに母となるー小児ガン との闘いの記録	アサノ タカコ 浅野多歌子	遊タイム出版		1995	○
519				た	タネ コ ショウニ タイ 種まく子どもたちー小児がんを体 ケン シチニン モノガタリ 験した七人の物語	サトウ リツコ 佐藤律子	ポプラ社 (角川文庫は2006)	小児ガンにかかった7人とその家族の手記。難病と向きあって日々を精一杯生きる姿は、生きること・死ぬこと、人の尊厳、家族や人々の絆など、多くの大切なことを教えてくれる。	2001 2006	○
520				よ	ヨウスケ 陽介、パパがついてるぞ	ニシダ オサム 西田修	かもがわ出版		1992	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少 がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
521				わ	わたしの家の戦士と天使 <small>イエ センシ テン</small>	タカオ イサオ 高遠勲 タカオ イク 高遠郁	文芸社		1995	○
522	その他	嗅神経芽細胞腫	○		摩優の樹ーいつか天の川でー	横井千香子	風葉社	* 横紋筋肉腫	2003	○
523		血管腫		が	ガンに克つ力 こうして私は病室を デ 出た <small>カ チカラ ワタクシ ビョウシツ</small>	コノエケンキチ 近衛剣吉	三一書房		1986	○
524		骨溶解性悪性血管腫	○	ほ	骨食い太郎 骨が溶ける難病とガ ンの克服を描いた童話と手記 <small>ホネク タロウ ホネ ト ナンビョウ</small>	マツンタ 松下かつとし	ミネルヴァ書 房		1990	○
525		神経内分泌腫瘍	○	せ	生と死の境界線 <最後の自由>を 生きる <small>セイ シ キョウカイセン サイゴ ジュウ</small>	イワイ ヒロシ 岩井寛口述 マツオカ セイゴウ 松岡正剛構 成	講談社		1988	○
526		腺がん		が	ガンとともに生きる <small>イ</small>	ゲール・エル トン・メーヨー	作品社	ストレスから生じた死病、ガンを強い精神力で乗り越え、発病以来24年を生き抜いた半生の記録。病魔との極限の戦いを通して存在の意義を平静に見極める絶筆となった感動の手記。	2003	○
527		未分化小細胞がん		さ	沙恵ちゃん25年間ありがとう <small>サエ ネンカン</small>	キタムラ ミヨコ 北村美代子	明窓出版	「未分化小細胞ガン」という病のため、最愛の娘と25年で別れなければならなかった著者がその闘病の日々を綴った、日記形式のドキュメンタリー。発病から末梢血造血幹細胞移植、転院、そして永訣の時までを、詳細に記す。	2006	○
528		転移性皮膚		う	裏切られたガン患者たち <small>ウラギ カンジャ</small>	イワマツヒサオ 岩松久保	五月書房	末期ガン患者は病院に見捨てられてしまうのか。ガン治療で医療機関に入院した人々の声をもとに医療現場の実態を物語風に綴り、医療現場改善のための問題提起を行う。* 乳がん	1999	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
529	その他	がん(鑑状がん)		が	ガン患者が病院から追われるとき <small>カンジャ ビョウイン オフ</small>	岩松久保 <small>イワマツヒサオ</small>	主婦の友社	ガンで入院した病院から退院を強制される、そんなことが許されるだろうか。しかし著者の妻は、臓器移植の美名のもとに、病院を追われた。日本の病院と患者との間にくすぶる問題を提起したドキュメント。*乳がん	1994	○
530		心筋梗塞		わ	わが命の灯を 心筋梗塞と肺ガン <small>イノチ ヒ シンキンコウソク ハイ</small> を越えて <small>コ</small>	阿木翁助 <small>アキ オウスケ</small>	講談社	*肺がん	1990	○
531		リンドウ病 (フォン・ヒツペル-リンドウ症候群)		ひ	ひとりのひとを哀しむならば <small>カナ</small>	大澤恒保 <small>オオサワ ツネヤス</small>	河出書房新社	愛する家族の死がくれた、「書く」という習慣。かつて傾倒した西東三鬼の俳句や散文に同質の波長を感じとり、三鬼と戯れながら書き続けた、母と二人の弟たち、そして自分自身への鎮魂歌。第5回蓮如賞佳作受賞作品。	1999	○
532		アンソロジー		い	生きる。 がんとうきあう7人のストーリー <small>ム ニン</small>	井上玲奈 鳥越俊太郎 <small>イノウエレイナ トリゴエ シュンタロウ</small> 猿渡瞳 他 <small>サルワタリヒトミ</small>	幻冬舎	がんを乗り越えた彼女に、氷上のプロポーズが待っていた。がんで父を亡くした後、自身もがんの宣告を受けたフィギュアスケート選手・井上玲奈をはじめ、がんと向きあう7人の希望のストーリーを収録。	2009	○
533					いのち輝かそう いのちの万葉集 <small>カガヤ マンヨウシュウ</small> 1	亀井眞樹 川口恭 <small>カメイ マサキ カワグチ ヤスシ</small>	ロハスメディカル	誰よりもつらく苦しいはずのあなたからの「ありがとう」…。がん・難病と共に生きる人々の真実の言葉。「第1回いのち輝かそう大賞」応募作品139編の中から、大賞そのほか各賞にノミネートされた57作品を収録。	2007	○
534				いのち輝かそう いのちの万葉集 <small>カガヤ マンヨウシュウ</small> 2	亀井眞樹 川口恭 <small>カメイ マサキ カワグチ ヤスシ</small>	ロハスメディカル				○
535				いのち輝かそう いのちの万葉集 <small>カガヤ マンヨウシュウ</small> 3	亀井眞樹 川口恭 <small>カメイ マサキ カワグチ ヤスシ</small>	ロハスメディカル				○
536				いのちの一句 がんと向き合う言葉 <small>イック ム ア コト</small> 万葉 <small>マンヤ</small>	いのちの歳時記編集委員会 <small>イジキ ヘンシュウイ インカイ</small>	毎日新聞社	渥美清、夏目雅子、吉村昭、倉嶋厚…。25人のがん経験者が詠んだ俳句と、彼らのがんにまつわるエピソードを紹介。また、がん経験者に加え、その家族や友人、医療関係者から公募した「がん俳句」も収録する。	2010	○	

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
537	その他	アンソロジー		が	がん患者として長期生存する医者たち <small>カンジャ チョウキセイゾン イシヤ</small>	菊池憲一 <small>キクチケンイチ</small>	海拓舎	「私のがん患者です。一緒に闘いましょう!」医者が末期がん患者として死と向き合ったとき、病を克服するために選択した治療法とは? 5人の医者たちが自らのがん体験をもとに、患者と医療の在り方を語る。	2000	○
538					がん患者を生きる <small>カンジャ イ</small>	朝日新聞医療グループ <small>アサヒシンブンイリョウ</small>	朝日新聞社	医師の診断・治療法は絶対か? 最先端技術・未承認薬の効果は? 余命宣告のショックからいかに立ち直るか? だれもが悩む問題を患者や家族の体験からつづる。『朝日新聞』連載を単行本化。	2007	○
539					ガン50人の勇気 <small>ニン ユウキ</small>	柳田邦男 <small>ヤナギタクニオ</small>	文芸春秋		1989	○
540					がんと闘ったスターたち <small>タタカ</small>	肥留間正明 <small>ヒルマササキ</small>	テレビ朝日		1993	○
541					がんになって生きるとのこと、死ぬということ <small>イ シ</small>	常蔭純一 <small>ツネカゲジュンイチ</small>	潮出版社	井上ひさし、青島幸男、赤塚不二夫、本田美奈子…。彼らのがんを宣告されてから亡くなるまで、どのようにがんと向き合い、人生をまっとうしたか。著名がん患者19人の終末期の物語。『がんサポート』連載を大幅加筆・修正。	2013	○
542					ガンのある日常 体験者18人のいのちの力 <small>ニチジョウ タイケンシャ ニン チカラ</small>	影山和子 <small>カゲヤマカズコ</small>	NTT出版	愛する人を看取り、自らの一部を失いながら、人はどのように「ガンのある日常」を受け入れていったのか。様々なかたちでガンと直面した18人の証言。『月刊がん・もっといい日』連載をまとめる。	2003	○
543					「がん」は患者に聞け! 有名人16人の全闘病記録 <small>カンジャ キ ユウメイジン ニン ゼントウビョウキロク</small>	吉田健城 <small>ヨシダケンジョウ</small>	徳間書店	がんを告知されたら、あなたはまず何を考えますか? 山田邦子、栗本薫、大橋巨泉…。読めば勇気が出る16人の優しい言葉を集める。『がんサポート』連載を加筆訂正して単行本化。	2009	○
544	が			がんばって! っていわないで。がん患者180の本音 <small>カンジャ ホンネ</small>	西出真由美 <small>ニシデ マユミ</small>	主婦と生活社	家族、医師、会社に面と向かっては言えないことも、匿名で1行なら聞かせてもらえるのでは? 患者の数だけ人生があり、つぶやきがある。愚痴でも、感謝でも、泣き言、慟哭、暴言でも構わない。がん患者のひと言本音を集める。	2003	○	
545				がん末期夫と向きあった最後の時 <small>マツキオウト ム サイゴ ジ</small> カン間	TBS『スーパーフライデー』 <small>ティービーエス スーパーフライデー</small>	マガジンハウス	TBS「スーパーフライデー」で放送された内容の単行本化。大泉滉夫妻、浜口庫之助夫妻など5組の絶望と光明の中で知った至上の夫婦愛。ふたりでガンと闘い尽くした濃厚な日々を収録する。	2000	○	

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少 がん	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	図書館
546	その他	アンソロジー		し	シン・がん50人の勇氣 新・がん50人の勇氣	ヤナギタクニオ 柳田邦男	文芸春秋	迫り来る死を前に人はいかに生きるかー。昭和天皇から本田美奈子まで、がんと向き合った作家・俳優・音楽家・学者・僧侶・企業人50余名の「生と死」のかたちを綴る。最期の瞬間まで生を全うした感動のドキュメント。	2012	○
547				ぶ	ブンゲイシュンジュウ スペシャル 文芸春秋SPECIAL No.18(2011年秋号) がんを生きる		文藝春秋		2011	○
548				み	ミナ ケシキ カ ガンコク 見慣れた景色が変わるとき「癌告知」18人の知恵と勇氣に学ぶ	ニホン 日本ペンクラブ	光文社	自分自身や身内が癌を告知されたらどうするか。癌をどのように告知されて、その告知をいかに受けとめ、何を考え、どう行動して自分なりにどのような結論を持っていったかななどを綴った、18人の貴重な体験手記。	1999	○
549				や	ヤママイコ 病を超えて いのちの対話	キシモト ヨウコ 岸本葉子	中央公論新社	がんを生きる。ひとりを生きる。スピリチュアルを生きるー。鎌田實、逸見晴恵、香山リカ、山折哲雄…。がんを体験した著名人、専門医、宗教者など12人の賢者と語った対談集。	2008	○

闘病記で生きる力を

～がんに向き合うために あなたに役立つ500冊～

発行 平成31年2月

さいたま市保健福祉局保健部健康増進課

〒330-9588

さいたま市浦和区常盤6-4-4

TEL 048-829-1294

FAX 048-829-1967